SOTEC

WinBook

WinBook WSシリーズ
ユーザーズガイド

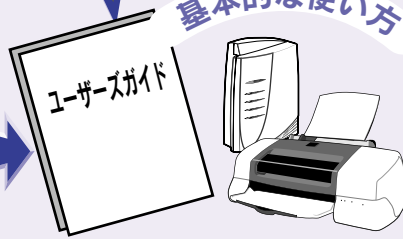
電源を入れる・
切るなど
基本的な操作から、
各機能の使い方を
説明しています。

マニュアルマップ

必ずお読みください

まずこれを読もう!

基本的な機器の接続と、使用する前の準備について説明しています。

次にこれを読もう!

各種ドライブの使い方や周辺機器との接続方法について説明しています。

サポートに関しては

SOTECのサポート情報、本製品の保証について説明しています。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

本製品は、人命に関わる設備や機器(医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など)や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

はじめに

このたびは、ソーテックWinBookをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このユーザーズガイドでは、WinBookのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を、6つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBookを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。
読み終わった後は、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

また、このユーザーズガイドをお読みになる前に、別冊の「WinBookファーストステップガイド」に従って、機器の接続を終了させ、Windows XPが起動できるように準備しておいてください。

Windowsの起動後には、[スタート]ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。
この中には、WinBookを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再インストールする場合は「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどのインストールを行わないとWinBookの性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

VCCI

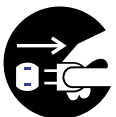
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

本製品を正しく安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

● 記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

⚠ 警告

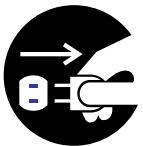
水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
火災･感電の原因となります。

●電源が100～240Vの範囲内であることを確認して使用してください。

100～240Vを超える電源を使用すると火災･感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理･改造をしないでください。
火災や感電の原因となります。
また、無償修理の対象外となります。
修理はSOTECテクニカルサポートセンタにご相談ください。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災･感電の原因となります。SOTECテクニカルサポートセンタにご相談ください。

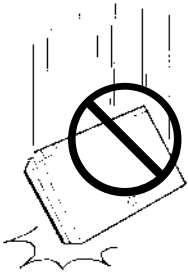
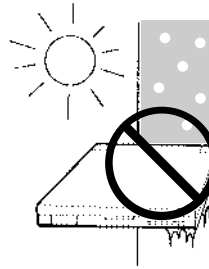
●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。
（発熱することは異常ではありません。）

⚠ 注意

電源プラグを抜く

●ACアダプタの電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

電源プラグを抜く

●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。漏電・火災の原因となります。

●落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。故障による火災・感電の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～35℃)/使用周囲湿度(20～80%ただし結露しないこと)を超える範囲では使用・保存しないでください。

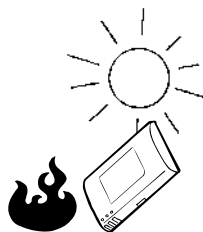
●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。

●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

⚠ 警告

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。
また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。
発熱・発火・破裂の原因になります。

●バッテリを火の中に入れないでください。破裂の恐れがあります。

●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。

●バッテリから液が漏れて、液が眼に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれています。分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

⚠ 注意

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(＋と－の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

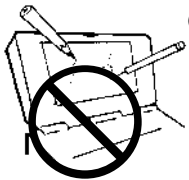
⚠ 注意

●バッテリを水や、海水につけたり、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

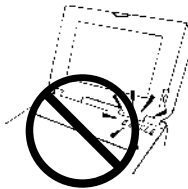
●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているか確認してください。

●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないでください。SOTECテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリは乳幼児の手の届かぬ所へ保管し、使用するときも、乳幼児が機器からバッテリを取り出さぬよう注意してください。

⚠ 取り扱い上の注意

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり､引っかいたりしないでください。

●液晶ディスプレイの汚れは､清潔でやわらかい乾いた布を使い､から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは､乾式のクリーニングディスクを使って､定期的にクリーニングしてください。

●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは､移動させないでください。

●本製品に付属のCD-ROMは大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは､定期的にバックアップをお取りください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～35℃)の環境に放置した後、お使いください。

目　次

STEP4 インターネットとホームネットワーク

STEP5 困ったときには

付　録

このマニュアルの読みかた

各ページの構成

このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。

インデックス
各章ごとに区切られています。

大見出し

この項目の概要

中見出し

補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

参照していただきたい別冊のマニュアルやオンラインヘルプを紹介しています。

☞参照ページ
その単語の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご覧ください。

章の構成

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて、大きく6つのセクションに分けて説明しています。

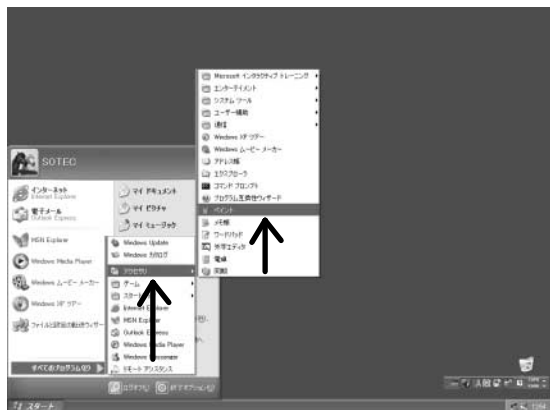
内容	章	
本体各部の名前とはたらき、付属のバッテリパックとACアダプタの取り付け方、電源の入れ方までを説明しています。	**ご使用になる前に STEP1**	
タッチパッド、キーボード、CD-ROMドライブなど、WinBookが標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。	**使ってみよう STEP2**	
PCカードやUSB機器など、WinBookと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。	**周辺機器を使いこなす STEP3**	
インターネットへの接続方法、ホームネットワーク(LAN)の設定方法について説明しています。必要に応じてお読みください。	**インターネットとホームネットワーク STEP4**	
WinBook、およびWinBookに接続している周辺機器を使っていて、困ったことがあれば参照してください。	**困ったときには STEP5**	
WinBookの内部プログラム(BIOS)の操作方法と、その機能について説明しています。また、パソコンに関する用語集、および索引を掲載しています。必要に応じて参照してください。	**付　録**	

WinBookを使うのは初めてという方は、「STEP1 ご使用になる前に」および「STEP2 使ってみよう」をまずお読みください。タッチパッド、キーボード、CD-ROMドライブなどの使い方を説明していますので、WinBookを一通り使いこなすための知識が身につきます。

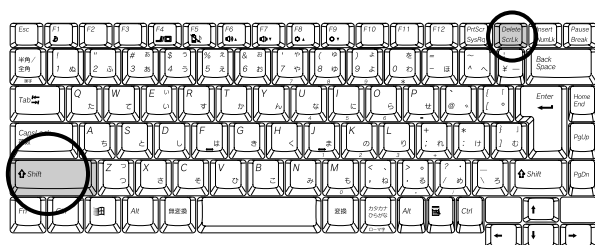
USB対応のスキャナを使いたい、PCカードに保存されているデジタルカメラの画像をパソコンに取り込みたいなど、本製品をより有効に活用したいときは、「STEP3 周辺機器を使いこなす」、「STEP4 インターネットとホームネットワーク」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「STEP5 困ったときには」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

マニュアルの表記について

操作の表記ルール

次々とメニューを選択していく動作を本マニュアルでは「→」を使って省略している箇所があります。例えば、左画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選ぶ動作を、

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ペイント]

と表記しています。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本マニュアルでは「＋」を使って省略しています。例えば、左図のように、Shift（シフト）キーを押しながら、Delete（デリート）キーを押す動作を、

Shift ＋ **Delete**

と表記しています。

また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表記しています。

キー表記とキーボードの対応表

本書の表記	実際のキー
Esc	Esc
Tab	Tab
Ctrl	Ctrl
Shift	Shift
Alt	Alt
Space	
Enter	Enter

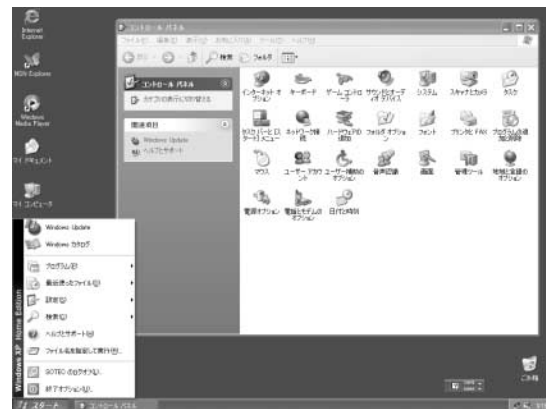
本書の表記	実際のキー
BackSpace	Back Space
Insert	Insert PrtScr
Delete	Delete SysRq
Home	Home PgUp
End	End PgDn
↑ ↓ ← →	↑ ↓ ← →
PageUp	Home PgUp

本書の表記	実際のキー
PageDown	End PgDn
F1 F2…	F1 F2 …
変換	変換
半角/全角	半角/全角 漢字
NumLK	NumLK
⊞	⊞
▤	▤

Windows XPの表記ルール

カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる通常の表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラッシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本マニュアルでは、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

カテゴリ表示モード

クラッシック表示モード

Windows XP Homeの画面で説明しています。

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Homeの2種類のバージョンがあります。機能の違いはほとんどありませんが、Windows XP Professionalには、マルチプロセッサおよびリモートデスクトップの機能に対応しています。本マニュアルでは、Windows XP Homeの画面で説明しています。

Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

本マニュアルでは、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

モデル名の表記ルール

本マニュアルでは、CD-ROMドライブモデル、CD-R/RWドライブモデル、コンビネーションドライブモデル(CD-R/RWとDVDドライブが1つのドライブ)の3モデルについて説明しています。お客様が購入されたモデルによっては、本マニュアルで説明している機能が使用できないことがあります。

本マニュアルでは、便宜上、CD-ROMドライブモデル、CD-R/RWドライブモデル、コンビネーションドライブモデルのドライブ名を総称して、CD-ROMドライブと表記しています。

・本マニュアル中の画面・イラストはモデル、ご使用の環境により実際の画面と異なる場合がございます。
・記載しておりますホームページの内容やアドレス、サポートセンタへのお問い合わせ番号は、本マニュアル制作時点のものであり、変更する場合がございます。

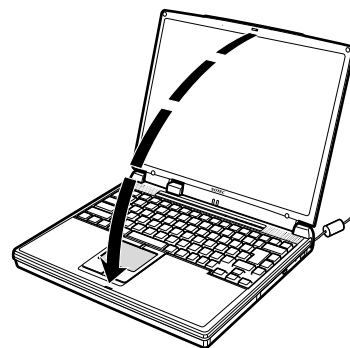
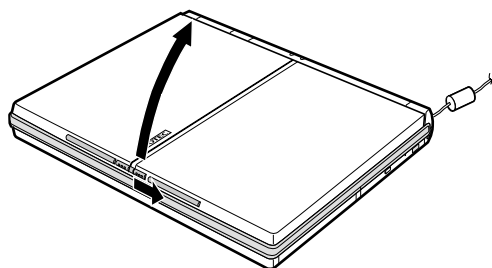
STEP 1

ご使用になる前に

本体各部の名前とはたらき、付属のバッテリパックとACアダプタの取り付け方、電源の入れ方までを説明しています。これからWinBookを使いこなしていくために基本的なことがらを説明しています。必ずお読みください。

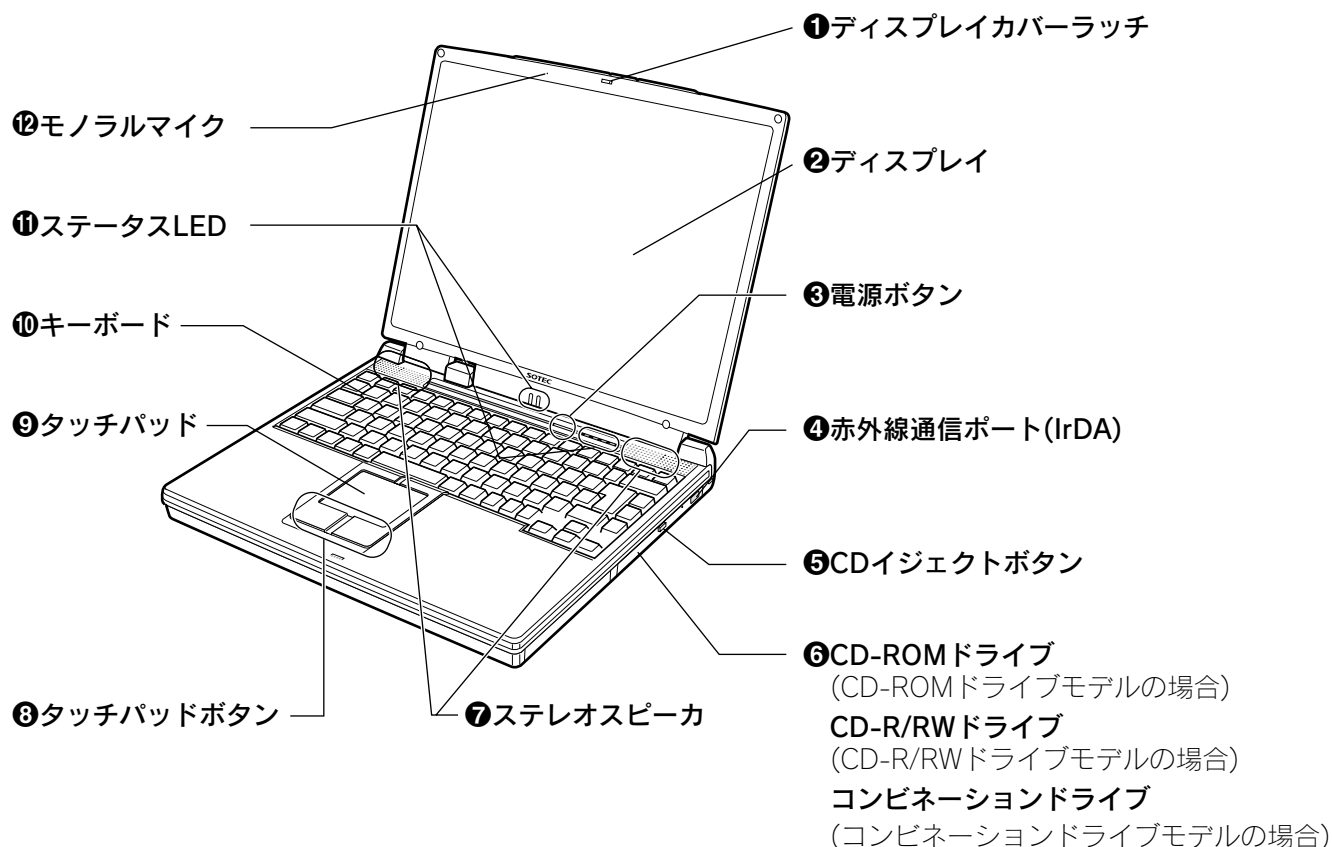
1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

ディスプレイカバーの開け閉め

ディスプレイカバーを開けるときは、手前のディスプレイカバーラッチを右へスライドしてロックを解除し、見やすい角度まで開きます。

ディスプレイカバーを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチがロックされるようにします。

前面/右側面

❶ディスプレイカバーラッチ
❷ディスプレイ
❸電源ボタン
❹赤外線通信ポート(IrDA)
❺CDイジェクトボタン
❻CD-ROMドライブ
(CD-ROMドライブモデルの場合)
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWドライブモデルの場合)
コンビネーションドライブ
(コンビネーションドライブモデルの場合)
❼ステレオスピーカ
❽タッチパッドボタン
❾タッチパッド
❿キーボード
⓫ステータスLED
⓬モノラルマイク

❶ **ディスプレイカバーラッチ**
ディスプレイカバーラッチを右へスライドさせてロックを解除し、見やすい角度までディスプレイを開けます。ディスプレイカバーを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチが本体にロックされるようにします。

❷ **ディスプレイ**
文字やグラフィックが表示されます。
省電力機能(☞ 48ページ)によりパソコンが動作していなければ、自動的にディスプレイの表示が消えるように設定することもできます。

❸ **電源ボタン**
電源をON/OFFにします。(☞ 24ページ)
また、電源スイッチを押したときに、省電力機能(☞ 48ページ)で設定した動作を実行させることができます。

注 意

HDD LEDおよびFDD LEDが点灯しているときにパソコンの電源をOFFにしたりリセットしないでください。データが壊れる恐れがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにするときは5秒以上待ってから操作してください。

❹ **赤外線通信ポート(IrDA)**
他の赤外線通信ポート(IrDA)を持つパソコンや、プリンタなどに、大量のデータを高速に伝送するためのポートです。(☞ 53ページ)

❺ **CDイジェクトボタン**
CD-ROMドライブにCD-ROMディスクなどを挿入するとき、または取り出すときに押すボタンです。(☞ 37ページ)

❻ **CD-ROMドライブ**
(CD-ROMドライブモデルの場合)
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWドライブモデルの場合)
コンビネーションドライブ
(コンビネーションドライブモデルの場合)
CD-ROM、CD-R/RW、またはDVD-ROMを挿入します。使用できるメディアはモデルによって異なります。

❼ **ステレオスピーカ**
Windowsのシステム音や、マルチメディアを使用したときの音声が、ステレオで出力されます。(☞ 62ページ)

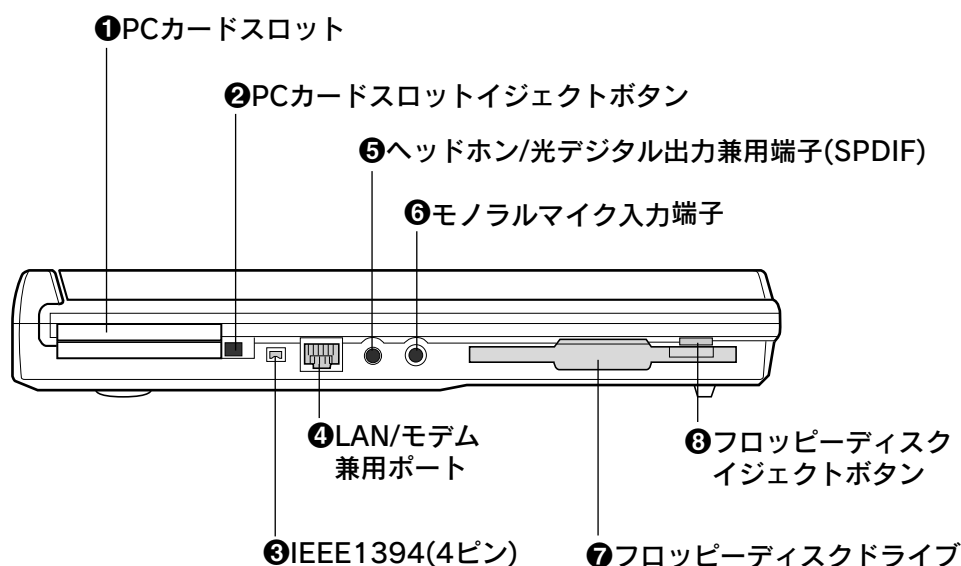
❽ **タッチパッドボタン**
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(☞ 28ページ)

❾ **タッチパッド**
指を軽くのせて動かすと、ディスプレイ上の矢印(マウスポインタ)が移動します。(☞ 28ページ)

❿ **キーボード**
キーを押して文字を入力したり、Windowsにコマンド(命令)を送ります。(☞ 30ページ)

⓫ **ステータスLED**
パソコンの動作状態が表示されます。
(☞ 19ページ)

⓬ **モノラルマイク**
音声をパソコンに取り込むことができます。
(☞ 62ページ)

左側面

❶ PCカードスロット(TypeII × 1またはTypeIII × 1)
PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。
(☞ 64ページ)

❷ PCカードスロットイジェクトボタン
PCカードスロットに挿入したPCカードを取り出すボタンです。(☞ 67ページ)

❸ IEEE1394(4ピン)
DV端子付きのデジタルビデオなど、IEEE1394機器を接続します。
(☞ 63ページ)

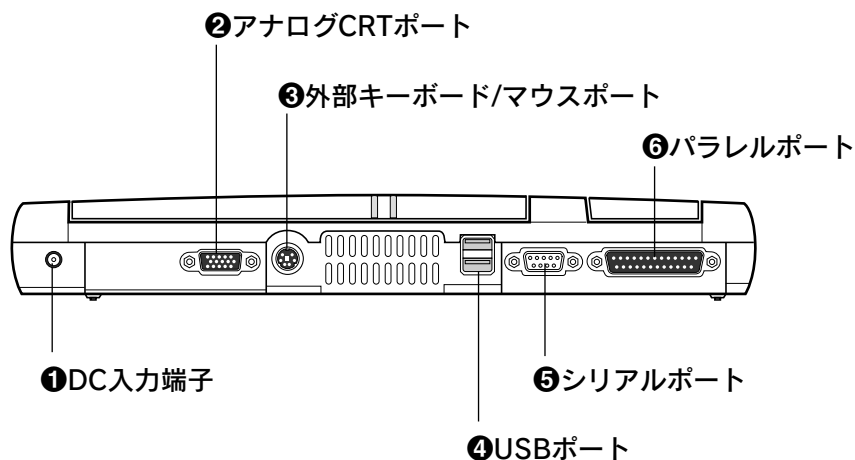
❹ LAN/モデム兼用ポート
56Kbpsのモデム通信(☞ 82ページ)、または10BASE-T/100BASE-TXのLAN接続(☞ 87ページ)ができます。モデム通信とLAN接続の機能は同時に使用できません。

❺ ヘッドホン/光デジタル出力兼用端子(SPDIF)
光デジタル入力端子を持つオーディオ機器や、ヘッドフォン、スピーカなどを接続します。
(☞ 62ページ)

❻ モノラルマイク入力端子
マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。
(☞ 62ページ)

❼ フロッピーディスクドライブ
フロッピーディスクを挿入します。
(☞ 34ページ)

❽ フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクドライブに挿入したフロッピーディスクを取り出すボタンです。
(☞ 35ページ)

後　面

❶ DC入力端子
付属のACアダプタを接続します。

・付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

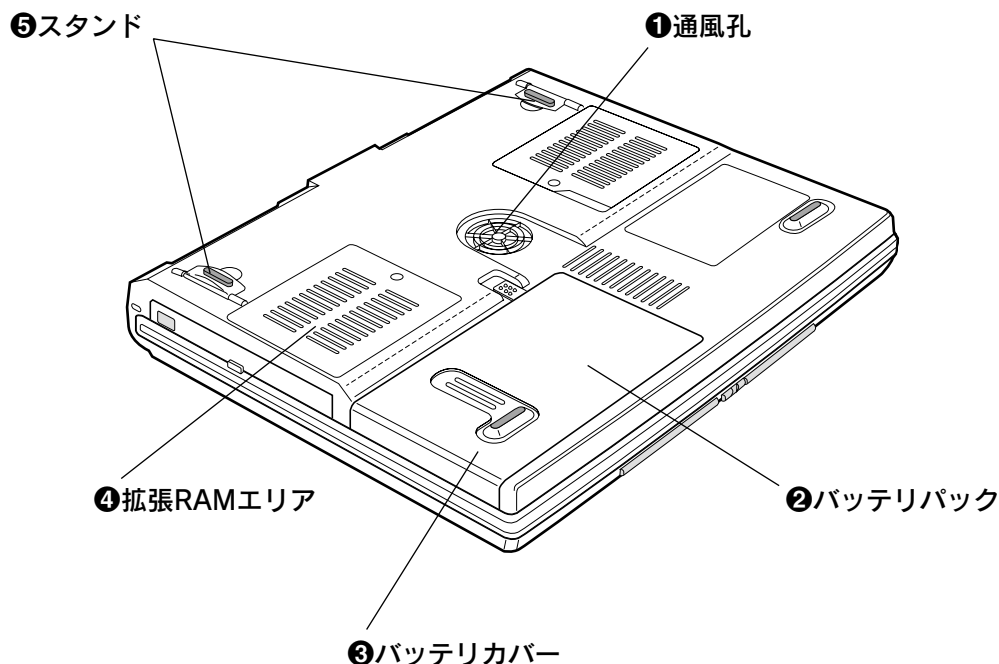
❷ アナログCRTポート
外部ディスプレイを接続します。
(☞ 78ページ)

❸ キーボード/マウスポート
PS/2キーボードやマウスを接続します。
(☞ 77ページ)

❹ USBポート
USB規格準拠の周辺機器を接続します。
(☞ 68ページ)

❺ シリアルポート(D-sub 9ピン)
外部モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。

❻ パラレルポート(D-sub 25ピン)
プリンタなどのパラレルポートを使う周辺機器に接続します。(☞ 56ページ)

底　面

❶ 通風孔
内部の熱を外に排出するための穴です。

❷ バッテリパック
ACコンセントがないような場所でパソコンを動作させるためのバッテリです。
(☞ 23ページ)

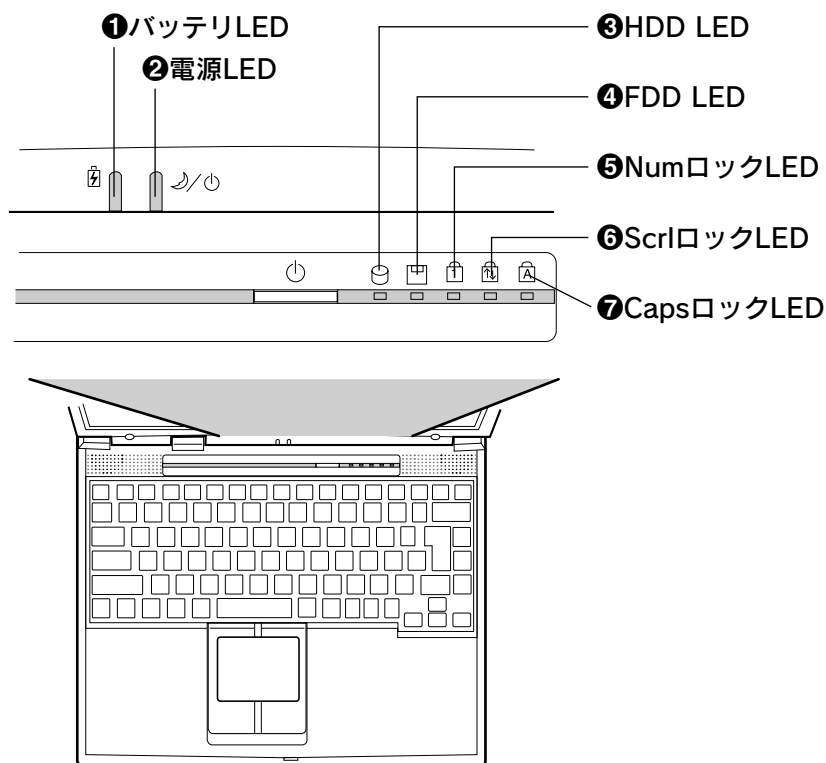
❸ バッテリカバー
バッテリを取り外すときに、このカバーを外します。(☞ 23ページ)

❹ 拡張RAMエリア
拡張RAMモジュールを装着します。
(☞ 74ページ)

❺ スタンド
本機が使いやすくなるよう、スタンドを引き起こして本体に角度を持たせます。

ステータスLEDについて

パソコンの動作状態はステータスLEDで確認できます。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。

❶ バッテリLED

バッテリの充電･放電状態が表示されます。
(☞ 20ページ)

❷ 電源LED

パソコンの電源状態が表示されます。
(☞ 20ページ)

❸ HDD LED

ハードディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❹ FDD LED

フロッピーディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❺ NumロックLED

NumLk キーがロック状態のときに点灯します。

❻ ScrlロックLED

ScrLk キーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

❼ CapsロックLED

CapsLock キーがロック状態のときに点灯します。ロック状態のときは、Shift キーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

注 意

HDD LEDおよびFDD LEDが点灯しているときにパソコンの電源をOFFにしたりリセットしないでください。データが壊れる恐れがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにするときは5秒以上待ってから操作してください。

2 ACアダプタの接続と充電

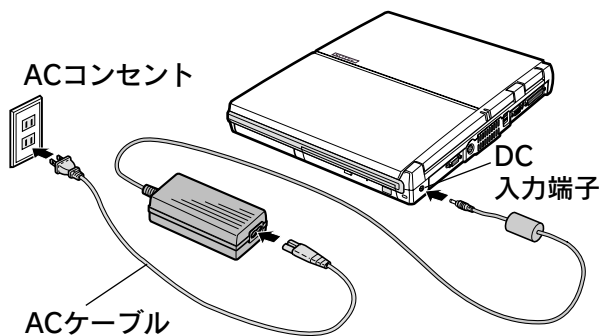
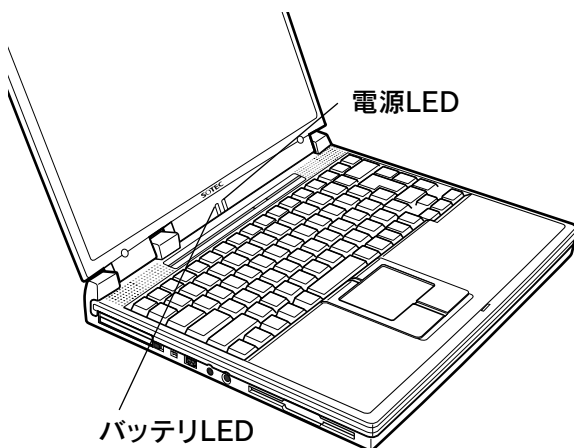
本機の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは

バッテリは十分に充電されていない状態で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、ACアダプタを接続してご使用ください。
ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

警告

・付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

ACアダプタの接続と充電

1 ACアダプタのプラグを、本体後面のDC入力端子に差し込みます。

2 プラグのもう一方とACコンセントを、ACケーブルで接続します。

バッテリLED( )が点滅し、充電が始まります。

使用できるAC電源は何ボルト?

アドバイス

本製品に付属のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。ただし、海外では、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。

バッテリLED( )が点灯したら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。
AC電源でお使いのときは、このままACアダプタを接続したままでお使いください。

電源LEDのステータス

緑色の点灯	電源がONの状態です。(ACアダプタを接続した状態)
緑色の点滅	スタンバイの状態です。(ACアダプタを接続した状態) (☞ 48ページ)
消灯	電源がONの状態です。(ACアダプタを接続しない状態)

バッテリLEDのステータス

緑色の点灯	バッテリがフル充電、もしくは放電中の状態です。
緑色の点滅	バッテリが充電中の状態です。
消灯	ACアダプタが接続されていない状態です。またはバッテリが装着されていない状態か、バッテリがエラーを起こしている状態です。

バッテリ残量が少なくなったときは

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順序で警告を発します。ACアダプタを接続してバッテリを充電するか、電源をOFFにした後、充電済みのバッテリパックと交換してください。

警告音が4秒おきに鳴る
(バッテリの残量が少ない状態)

警告音が2秒おきに鳴る
(バッテリの残量がかなり少ない状態)

電源がOFFになる、または省電力機能の設定によりスタンバイや休止状態になる

バッテリを節約するには

・輝度やコントラストを小さくする。
・省電力機能を使う。(☞ 48ページ)
・なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

バッテリの警告音を止めるには

バッテリの残量が少なくなると警告音が鳴ります。警告音を止めるにはFn+F5を押します。

・バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず「バッテリパックの交換」(☞ 22ページ)の説明に従って交換してください。
・バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生する恐れがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。バッテリの警告音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。

スタンバイと休止状態

スタンバイはアプリケーションソフトなどの動作状態をメモリに保存し、パソコンの電源をOFFにする機能です。次回、電源をONにすると、電源をOFFにした直前の状態で、パソコンが起動されます。
使用中のアプリケーションソフトを終了させることなく電源をOFFにできるので、アプリケーションソフトを起動しなおす必要がありません。ただし、スタンバイの状態では、少量の電力が消費されているため、バッテリのみで使っているときに長時間スタンバイの状態にしておくことはお勧めできません。
休止状態も電源をOFFにする直前の状態で起動させる機能ですが、動作状態をメモリではなく固定ディスクに保存するため、休止状態の間に電力を消費することはありません。
スタンバイと休止状態の設定方法は、「省電力機能を利用する」(☞ 48ページ)をご参照ください。

バッテリの残量警告と終了動作の設定

バッテリ残量が少なくなってきたことを知らせる警告音と、バッテリ残量が無くなったときにパソコンをどのような状態で電源をOFFにするかを設定できます。

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]を選択します。

2 【電源オプションのプロパティ】ダイアログが表示されます。

3 チェックを入れると、バッテリ残量が警告表示されます。

4 「アラームの動作」をクリックすると、警告表示後のパソコンの動作を設定できます。

5 警告の通知方法を音で知らせるか、メッセージで表示させるかを選択します。

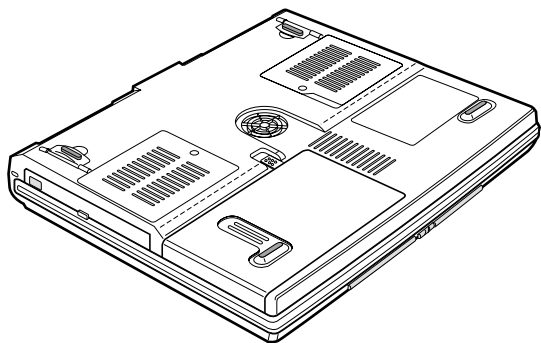
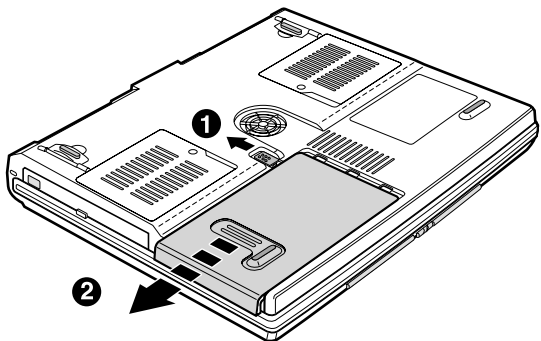
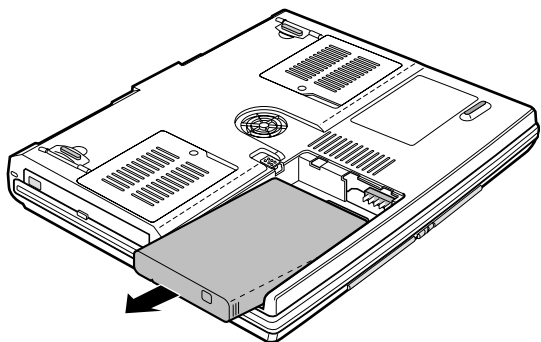
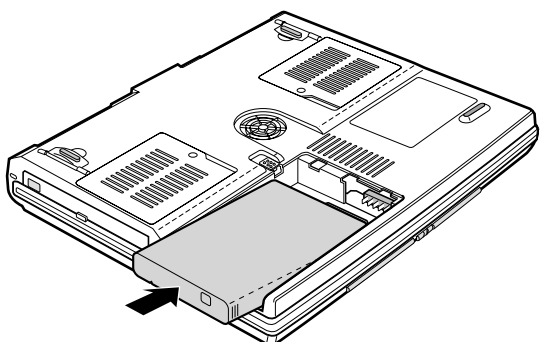
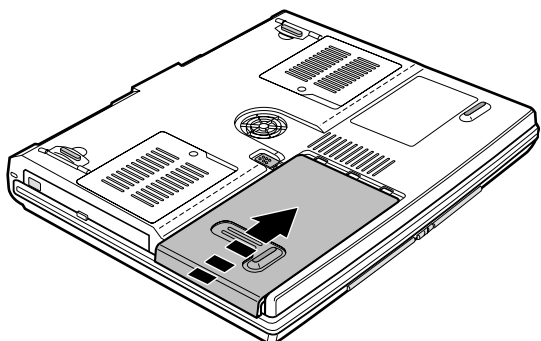
6 警告表示後のパソコンの電源状態を、スタンバイ、シャットダウン、休止状態から選択します。

7 [OK]をクリックします。

バッテリパックの交換

注 意

- 弊社純正のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡などは絶対にしないでください。爆発したり火災を起こす恐れがあります。
- バッテリパックの取り扱いについては「本製品を正しく安全にお使いいただくために」(☞ 2～5ページ)も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源がOFFのときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯している事を確かめてください。

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

2 バッテリカバーのラッチを矢印の方向にスライドさせながら、バッテリカバーを取り外します。

3 バッテリパックをスライドさせて取り外します。

4 交換用のバッテリパックをスロットに挿入します。

5 バッテリパックがスロットに確実に装着されているのを確認した後、バッテリカバーを取り付けます。

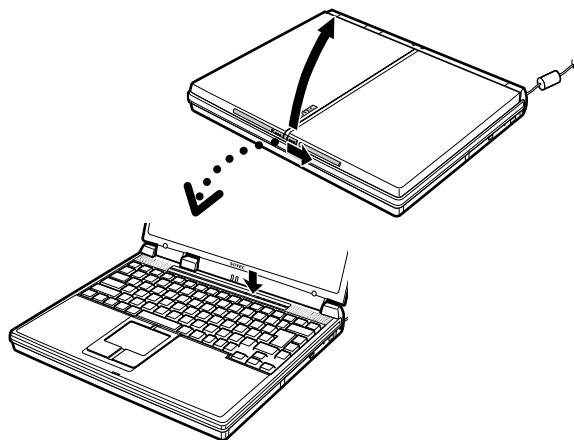
3 電源を入れる

機器の接続を確認したら、電源を入れてみましょう。

初めて電源を入れたときは

ご購入後初めて電源を入れたとき、または何らかの不具合によりリカバリCD-ROMを使用してWindows XPを再インストールした直後は、Windows XPセットアップが始まります。画面に表示される指示に従って、Windows XPセットアップを終了させてください。

STEP1 ご使用になる前に

1

機器の接続を確認した後、本体の前面にあるラッチを右へスライドしてディスプレイカバーを開け、パソコンの電源を入れます。

参照 機器の接続については、付属の「WSシリーズファーストステップガイド」をご参照ください。

しばらくすると、Windows XPセットアップが起動します。

2

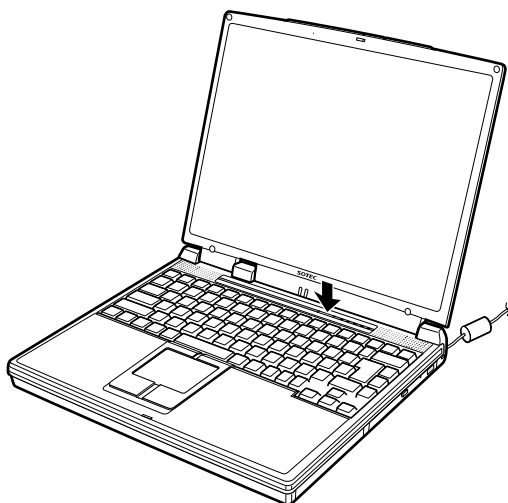
画面に表示される指示に従って、Windows XPセットアップを終了させます。

Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

参照 Windows XPセットアップの手順については付属の「WSシリーズファーストステップガイド」をご参照ください。

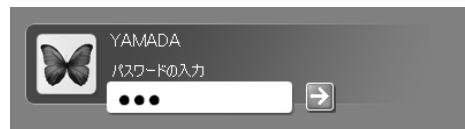
2回目以降に電源を入れたときは

Windows XPセットアップを終了させておけば、次に電源を入れたときに、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。

1

機器の接続を確認した後、本体の前面にあるディスプレイカバーラッチを右へスライドしてディスプレイカバーを開け、パソコンの電源を入れます。

アドバイス

複数のユーザーを登録している場合は、ユーザーの選択画面が表示されます。

ユーザーにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度確認してください。Windows XPでは、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

チェック

・パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。
・リカバリCD-ROMをCD-ROMドライブにいれたままパソコンの電源をONにすると、リカバリの開始画面が表示されてしまいます。その場合、画面の指示に従い、再インストールを中断した後、リカバリCD-ROMを取り出してから再起動してください。

4 電源を切る

パソコンを使い終わったら、電源を切りましょう。
少し休憩する間などパソコンの消費電力を抑えたいときは、省電力機能(☞ 48ページ)を使用します。

STEP1 ご使用になる前に

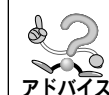
電源を切る

1 [スタート]ボタンから[終了オプション]を選択します。

チェック

いきなり電源スイッチを押して電源を切る動作を繰り返すと、Windows XPのシステムが壊れて、Windows XPの再インストールが必要になることがあります。電源を切るときは正しい手順で操作してください。

2 [電源を切る]をクリックします。

[スタンバイ]の使い方については、48ページをご参照ください。

アドバイス

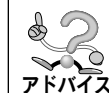
キーボードを使ってWindowsを終了するには

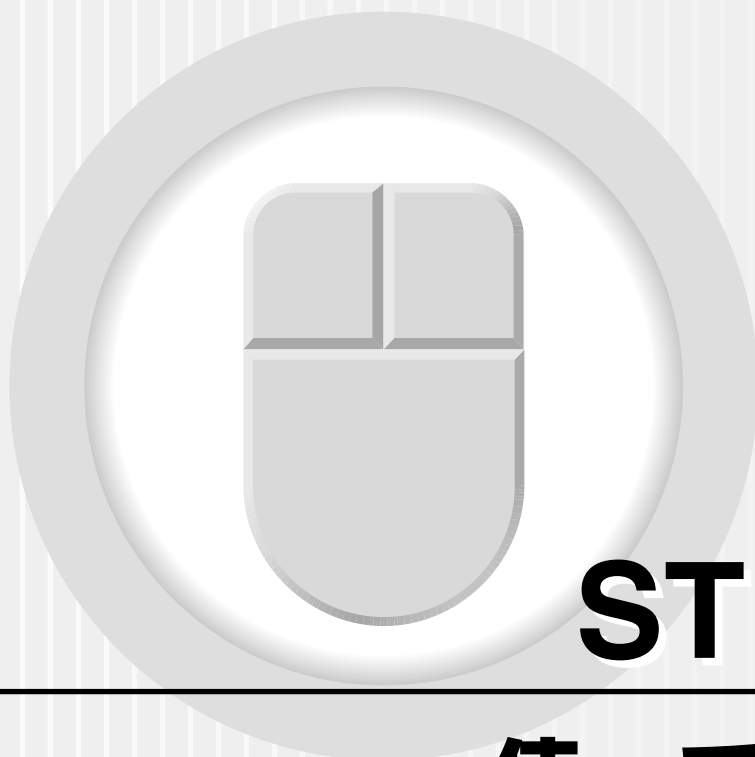
⊞キーを押し、Uキーで[終了オプション]を選択します。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されたら、再度Uキーを押します。

自動的に本体の電源が切れます。
周辺機器の電源も必要に応じて切ります。

電源を切らずに再起動させる

デバイスドライバ(☞ 61ページ)のインストールが終了した後や、Windowsの動作が不安定(画面が乱れたり、画面が動かない)になったときは、次の手順で、Windowsを再起動させます。

1 【コンピュータの電源を切る】ダイアログから[再起動]をクリックします。

アドバイス

アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、Ctrl＋Alt＋Deleteキーを同時に押すことで、特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。

STEP2

使ってみよう

タッチパッド、キーボード、CD-ROMドライブなど、WinBookが標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。
また、スタンバイ、休止状態といった省電力機能の使い方についても説明しています。WinBookを初めて使う方は、必ずお読みください。

1 タッチパッドを使ってみよう

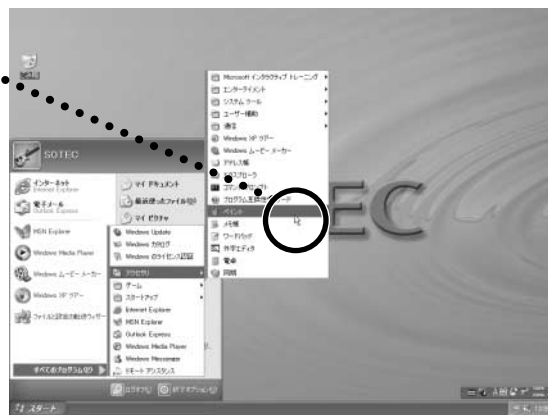
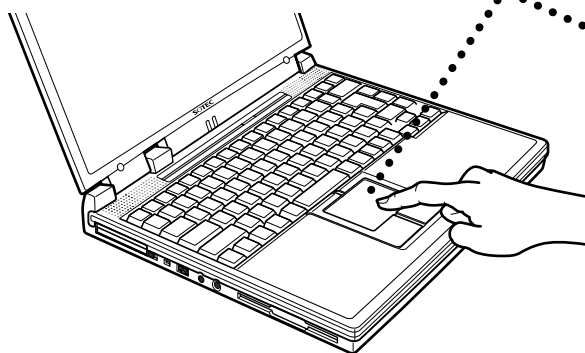
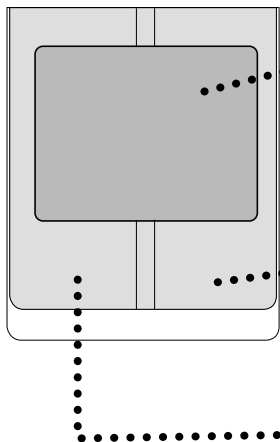
本機には、マウスと同じ機能を持つ「タッチパッド」と左右2つのボタンがあります。これらを使って画面上のマウスポインタ(マウスカーソルともいう)を動かし、Windowsを操作します。

注 意

・タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
・2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂や汚れによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、十分に汚れを取りのぞいてからご使用ください。
・ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

タッチパッドの名前と機能

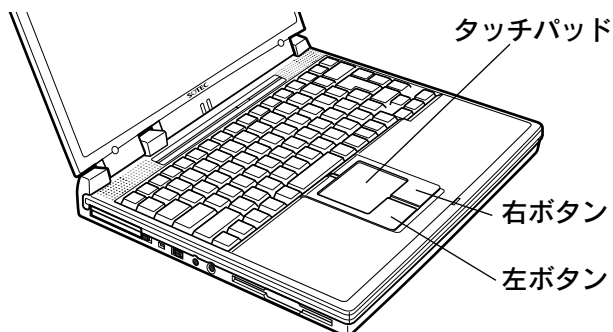
タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

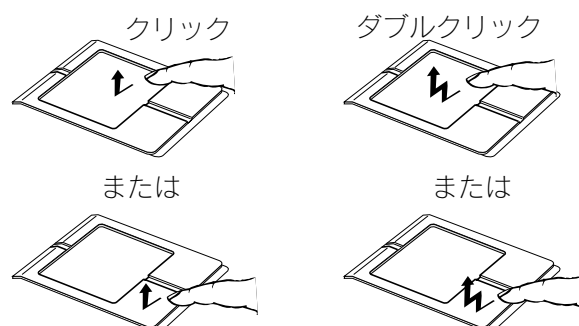
タッチパッド上の指の動きに合わせて、
マウスポインタも動く

本製品のタッチパッドには次のような名前と機能があります。

タッチパッド
指を触れて動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

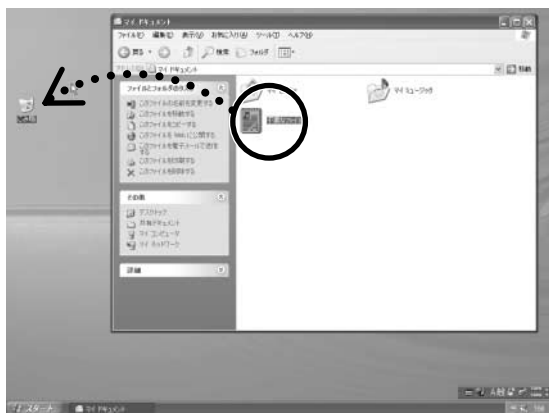
右ボタン
右クリックするときに押します。
Windowsでは、右クリックするとショートカットメニューが表示されます。

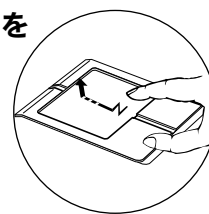
左ボタン
左クリックするときに押します。

タッチパッドの操作方法

クリックとダブルクリック

クリックとは、右または左ボタンを１回押すことです。タッチパッド上を１回たたくことでもクリックできます。

ダブルクリックとは、右または左ボタンを２回押すことです。
タッチパッド上を２回たたくことでもダブルクリックできます。

ドラッグ＆ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。
ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、目的の場所に置くことです。
ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを押し続けたまま(またはタッチパッドを２回たたき)、指をタッチパッドから離さず動かしていきます。

左ボタンを押したまま動かします。

「ごみ箱」アイコンの上でボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入ります。

2 キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーは、その機能によって大きく５つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表的な機能がすぐに使えます。

[Windows]+F1	Windowsの「ヘルプとサポートセンター」を表示
[Windows]+M	ウィンドウの最小化
[Windows]+Tab	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+R	【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
[Windows]+E	マイコンピュータを起動
[Windows]+F	ファイルとフォルダ検索画面を起動
[Windows]+Pause	【システムのプロパティ】ダイアログを表示
[Windows]+Ctrl+F	パソコンの検索画面を起動

アプリケーションキー

タッチパッドの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルをご参照ください。

制御キー(薄いアミ部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキー、入力位置を決めるキー、パソコンに対してコマンド(命令)を送るキーなどです。
これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

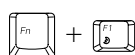
文字入力キー

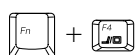
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。
１つのキーに２つ以上の文字が割り当てられており、CapsLock Shift NumLk ひらがな カタカナ の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

ファンクションキー(アミの部分)

制御キーの一つである Fn キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、コントラストを調整できます。

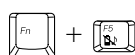
スタンバイに入る

Fn + F1

F1 キーを1回押すと、省電力機能(☞ 48ページ)が働きます。

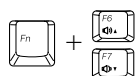
本体ディスプレイ表示か外部ディスプレイ表示かを切り替える

Fn + F4

F4 キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。(☞ 78ページ)

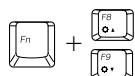
バッテリの警告音(ビープ音)を止める

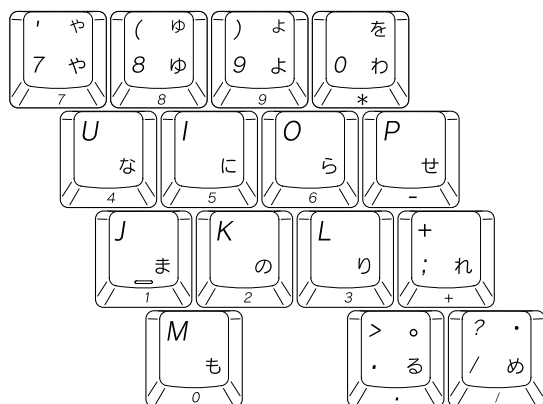
Fn + F5

F5 キーを1回押すと、バッテリの警告音が止まります。

スピーカ音量を調節する

Fn + F6 / F7

F6 キーを押すごとに、内蔵スピーカから出る音が増大、F7 キーを押すごとに音量が減少します。

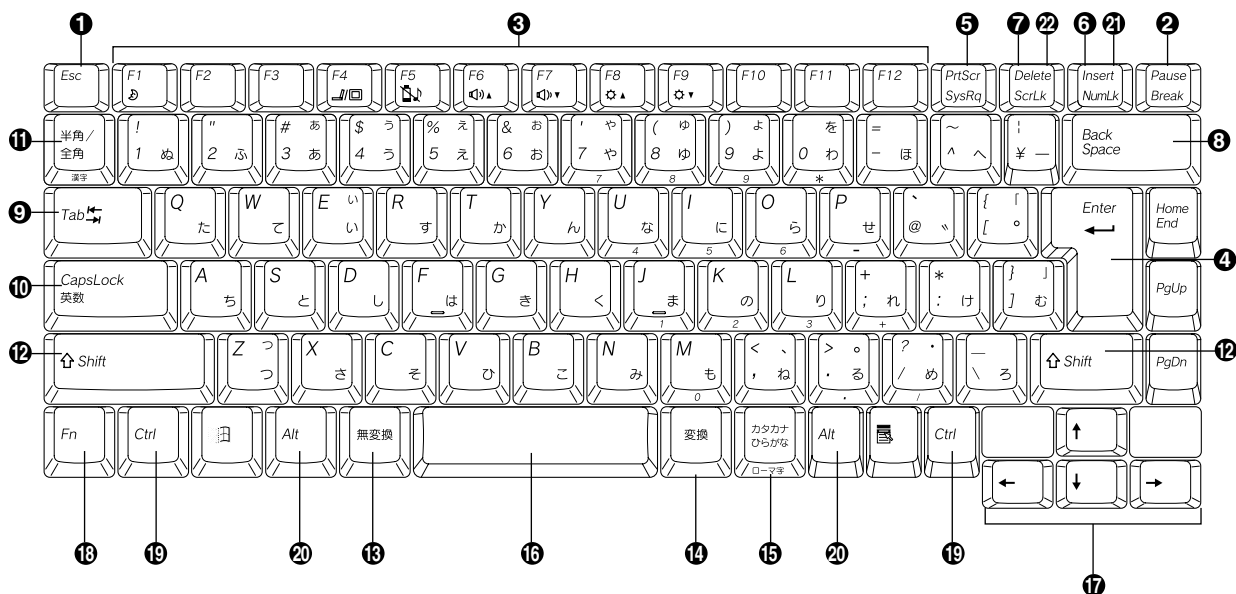
輝度を調整する

Fn + F8 / F9

F8 キーを押すごとにディスプレイの輝度が増大、F9 キーを押すごとにディスプレイの輝度が減少されます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fn + NumLk キーを押すことで、キーボードの図の部分(ニューメリックキー)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。

外部キーボードマウスコネクタに外部キーボードが接続されているときには、テンキー機能は使用できません。

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名前と機能を説明しています。

中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ Esc(エスケープ)キー
設定を取り消したり、実行を中止するときに押します。

❷ Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー
実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ ファンクションキー
F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションソフトにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹ Enter(エンター)キー
通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させる場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行ができます。

画面のハードコピーをとったり、Windowsの画面を取り込むのに使います。

❺ PrtScr(プリント・スクリーン)キー
表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻ Insert(インサート)キー【ロックされます】
文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼ Delete(デリート)キー
カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

ロック状態について

キーには、1回押すと状態が固定されて、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
固定されるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。

❽ Back Space(バックスペース)キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

❾ Tab(タブ)キー
文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tab キーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿ CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shift キーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫ 半角/全角キー【ロックされます】
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン、オフになります。また、Alt キーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬ Shift(シフト)キー
他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力ができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭ 無変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に、このキーを押すとモードが変わります。

⓮ 前候補/変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯ カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときは Shift キーと同時に押すと切り替わります。また、Ctrl Shift キーと同時に押すとカナキーのON/OFFが切り替わります。

⓰ スペースキー
文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かしたりページをめくるときに使います。

⓱ カーソルキー
通常、キーに表記されている矢印の方向に、カーソルが動きます。
他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲ Fn(エフエヌ)キー
キーボード上に青い文字で表記されている機能を使うときに、同時に押します。

⓳ Ctrl(コントロール)キー
文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓴ Alt(オルト)キー
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能を変えることができます。

㉑ NumLk(ニューメリックロック)キー【ロックされます】
Fn キーと併用することで、キーボードの右半分を数字キーとして使えるようになります。

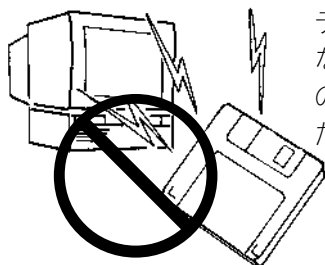
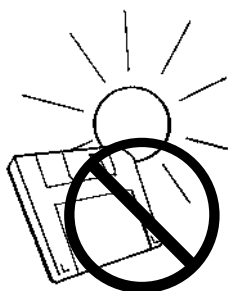
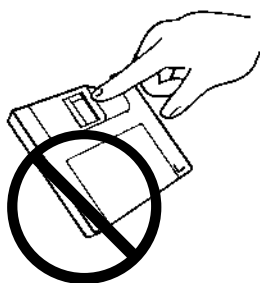
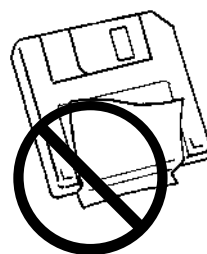
㉒ ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】
キーを押したときの動作は各アプリケーションソフトにより異なります。通常、Fn キーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

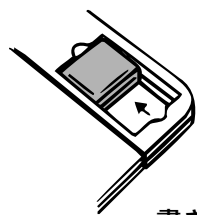
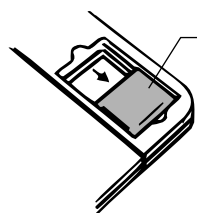
3 フロッピーディスクを使ってみよう

本機には、3.5インチフロッピーディスクドライブがあります。ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする方法について説明します。

フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するときに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、パソコンの電源をオフにする前に必ずフロッピーディスクドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

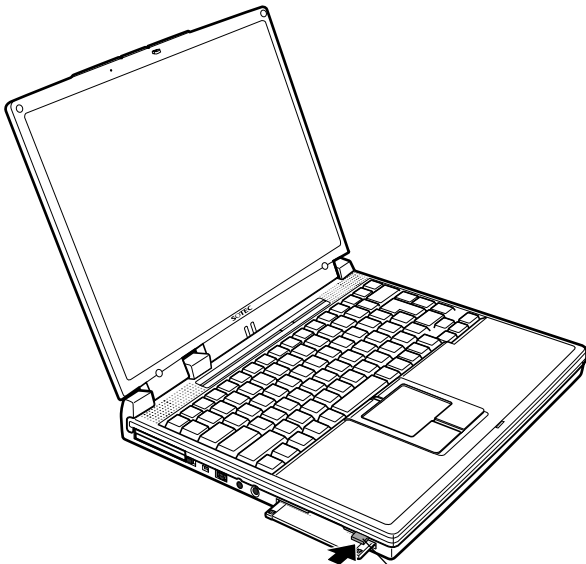
注意

テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。

特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。

内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。

ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

データを書き込み禁止にする

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトするにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

■ライトプロテクトが「上側」になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。

■ライトプロテクトが「下側」になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

フロッピーディスクの出し入れ

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にして、フロッピーディスクドライブの中に挿入します。

フロッピーディスクが正しくセットされると、フロッピーディスクイジェクトボタンが飛び出します。

フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

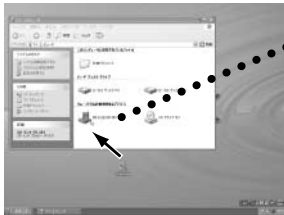
フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

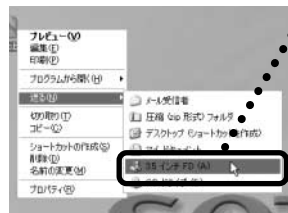
フロッピーディスクイジェクトボタン

注 意

フロッピーディスクを取り出すときは、FDD LEDが点灯していないことを確認してから取り出してください。点灯しているときに取り出すと、フロッピーディスクのデータが壊れる恐れがあります。

ファイルをフロッピーディスクにコピーする

ファイルをフロッピーディスクにコピーするには、次の2通りの方法があります。

[マイコンピュータ]の中にある[3.5インチFD]のアイコンに、コピーしたいファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルを選択した状態で右クリックして表示されるメニューから、「送る」→「3.5インチFD」を選択します。

操作後、フロッピーディスクにファイルがコピーされます。

チェック

本機のフロッピーディスクドライブは、「3.5インチ2HDタイプ」と「3.5インチ2DDタイプ」のフロッピーディスクが使用できます。それ以外のフロッピーディスクは使用できません。

アドバイス

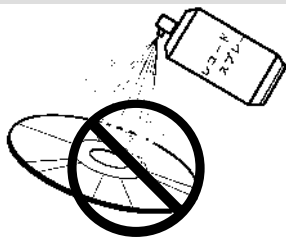
2HDと2DD

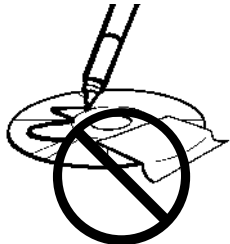
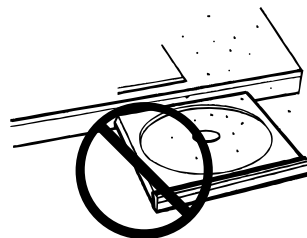
2HDは「両面高密度倍トラックタイプ」、2DDは「両面倍密度倍トラックタイプ」の略です。2HDには1.44MBの、2DDには720KBのディスク容量があります。

4 CD-ROMを使ってみよう

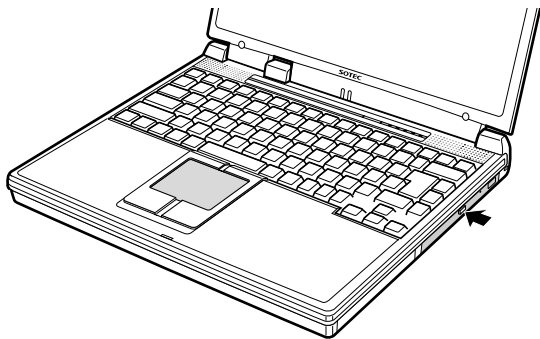
ここでは、CD-ROMを使う方法について説明します。

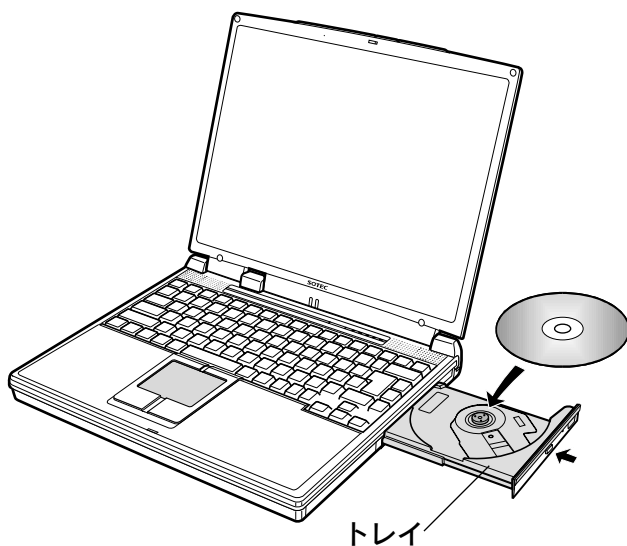
CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやCD-ROMディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、パソコンの電源をOFFにする前にCD-ROMドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

CD-ROMディスクの出し入れ

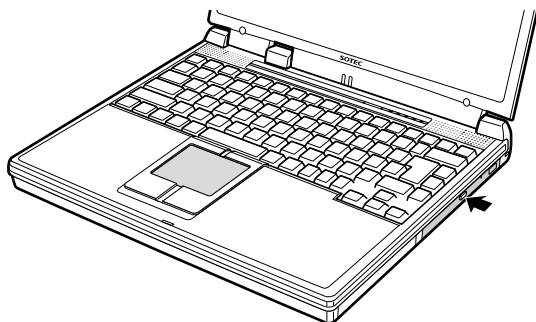
1

パソコン本体の電源がONになっているのを確認してから、CDイジェクトボタンを押します。

2

CD-ROMディスクをセットします。記録面を下にして、トレイにCD-ROMディスクを確実に固定してください。

CD-ROMディスクはトレイの中心部で固定します。「カチッ」という音がするまで確実にCD-ROMディスクをトレイにセットしてください。

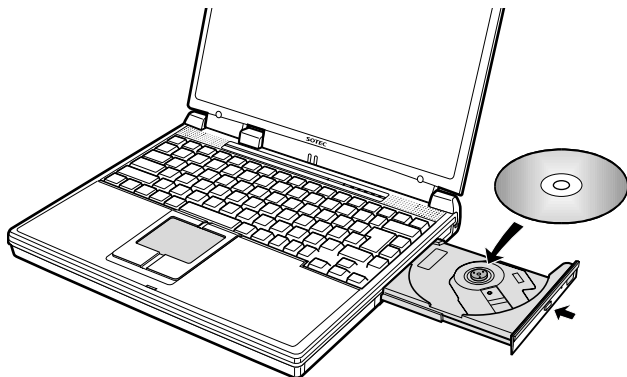
3

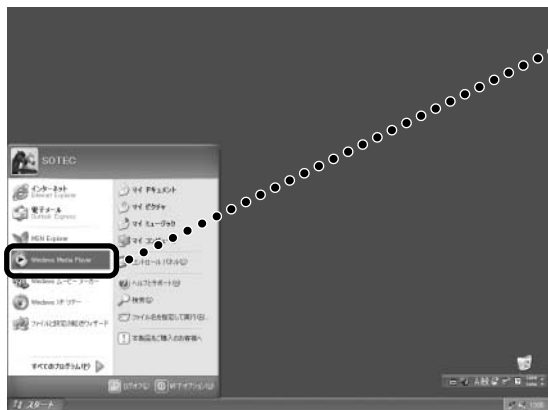
トレイを押し込みます。

4

CD-ROMディスクを取り出すときは、再度CDイジェクトボタンを押します。

音楽CDを聴く

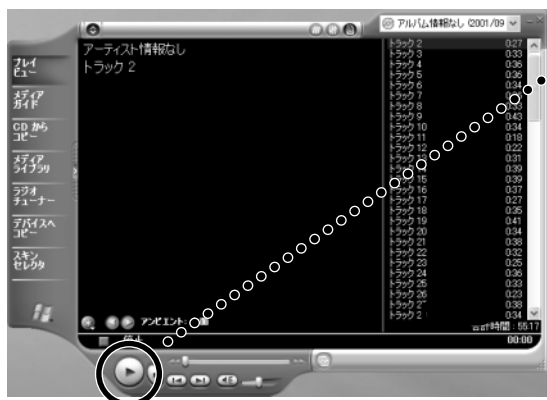
音楽CDをCD-ROMドライブに入れると、自動的にWindows Media Playerが起動し、音楽CDの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生してください。

1

CD-ROMドライブに音楽CDのディスクを入れます。

2

[スタート]ボタン→[Windows Media Player]を選択します。

「Windows Media Player」が起動します。

3

4

Windows Media Playerの (再生)ボタンをクリックします。

音楽CDを再生します。

☒をクリックすると、Windows Media Playerを終了します。

参照

Windows Media Playerの使い方は、Windows Media Playerのヘルプをご参照ください。

CD-ROMの規格について

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本機ではこれらすべての規格を再生できます。

■CD-DA、CD-Extra（エキストラ）

CD-DAは音楽用のCDです。音楽CDをCD-ROMドライブにセットし、Windows XPの「Windows Media Player」を起動して音楽を聞きます。
CD-Extraは音楽用CDですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

■Video CD

Video CDは、映画などの動画をCDに収めたものです。Video CDをCD-ROMドライブにセットし、「Windows Media Player」で再生します。

■Photo（フォト） CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

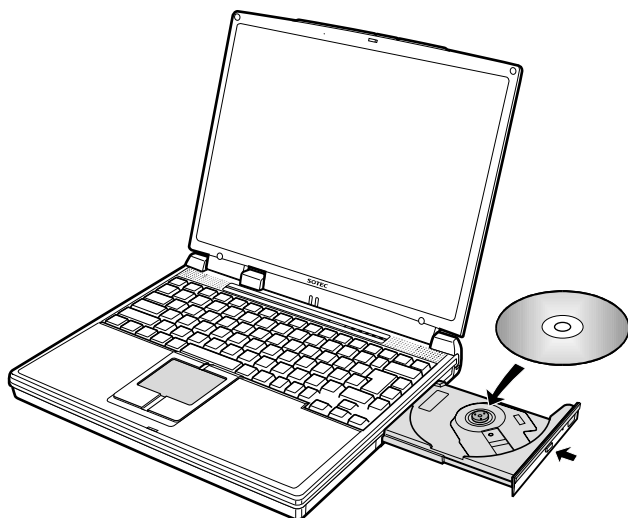
■CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在使われている多くのCD-ROMは、この規格に基づいています。

CD-R/RWでデータディスクを作成する

※CD-R/RWドライブモデルおよび
コンビネーションドライブモデルのみ

CD-R、CD-RWディスクを使って、音楽CDやデータディスク(CD-ROM)の作成ができます。
CD-Rディスクを使うと、一度記録したデータを書き直すことはできません。
CD-RWディスクは記録したデータを何度でも書き換えることができます。
音楽CDやデータディスク(CD-ROM)の作成には、付属のEasy CD Creatorを使用します。

1

CD-ROMドライブにCD-R、またはCD-RWのディスクを入れます。

2

[すべてのプログラム]→[Easy CD Creator]の順に選択します。

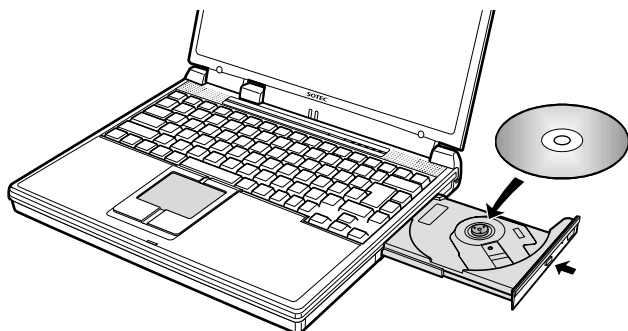
「Easy CD Creator」が起動します。

Easy CD Creatorの使い方については、「Easy CD Creator」のオンラインヘルプをご参照ください。

DVDビデオを見る(TideoDVD)

※コンビネーションドライブモデルのみ

DVDビデオの再生は、TideoDVDを使用します。DVDビデオのディスクをCD-ROMドライブに入れると、自動的にTideoDVDが起動し、DVDビデオの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生します。

1

CD-ROMドライブにDVDビデオのディスクを入れます。

2

[すべてのプログラム]→[SOTEC]→[Tideo DVD]→[TideoDVD]の順に選択します。

「TideoDVD」が起動します。

TideoDVDの再生ボタンをクリックします。

DVDビデオが再生されます。

TideoDVDの使い方については、
「Tideo ユーザーズガイド」をご参照ください。

DVDの規格について

現在市販されているDVDには次のような規格があり、本機(コンビネーションドライブモデルのみ)ではこれらすべての規格を再生できます。

■DVD-ROM

パソコンなどで作成されたデータを記録するために作られたもので、DVDメディア片面(一層記録)に最大4.7GBのデータが記録されています。

■DVD-Video(DVDビデオ)

DVD-Video規格で収録された映画タイトルなどです。コンビネーションドライブモデルには、DVDビデオを再生するための「TideoDVD」がインストールされています。

・コンビネーションドライブモデルに搭載されているドライブはROM(Read Only Memory)です。DVDディスクから読み込みはできますが、DVDディスクへの書き込みは一切できません。
・海外で販売されているDVDビデオの中には、本機では再生できないものがあります。

5 サウンド機能を使ってみよう

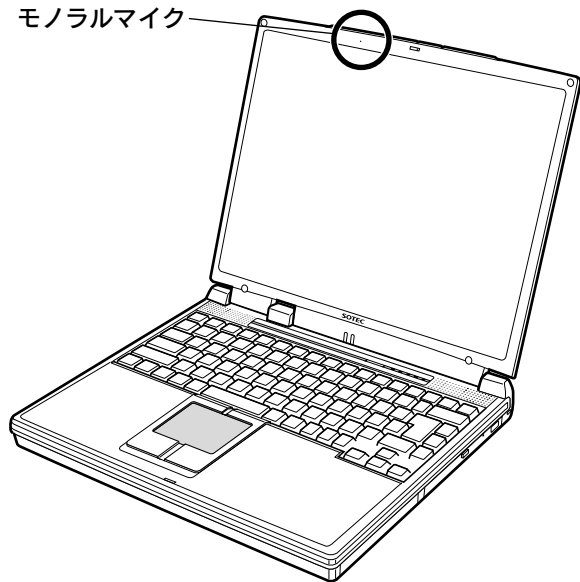
本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子やスピーカなどが用意されています。ここではそれらの使い方を説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはステレオスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の３種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、Windowsのアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調整したり、ミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	モノラルマイクやモノラルマイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。

内蔵マイクについて

ディスプレイ上部にはマイク(モノラル)が内蔵されています。(☞ 14ページ)
このマイクを使うと手軽に音声をパソコンに取り込むことができます。

モノラルマイクのボリュームを最大にして録音すると、スピーカとハウリングを起こして正しく録音されない場合があります。適切なボリュームで録音してください。

スピーカの音量を調整する

内蔵スピーカの音量は次のように調整します。

Windowsでスピーカの音量を調整するとき

1

タスクバーの アイコンを左クリックします。

2

つまみをドラッグして調整します。
「ミュート」をチェックすると音声が消えます。

STEP2 使ってみよう

アドバイス

タスクバーに[スピーカ]アイコンを表示させるには

[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[サウンド、音色、およびオーディオデバイス]→[サウンドとオーディオデバイス]を選択すると、プロパティの画面が表示されます。[音量]のタブから「タスクバーに音量アイコンを配置する」をチェックし、「適用」ボタンを選択してください。

Windowsで音量の左右のバランスや、音源ごとの音量を調整するとき

1

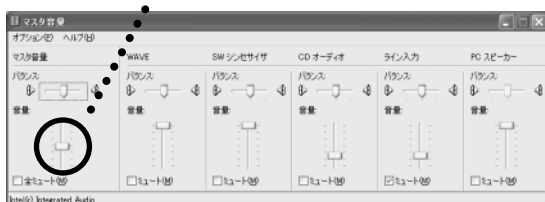
タスクバーの[スピーカーアイコン]を右クリックします。

2

ボリューム コントロールを開く(O)
オーディオ プロパティの調整(A)

「ボリュームコントロールを開く」を左クリックします。

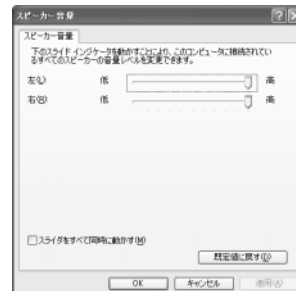
3

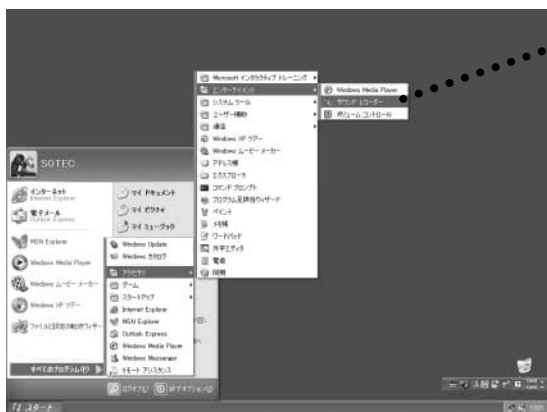
各音量のつまみをドラッグして調整します。

キーボードを使って調整するとき

音量の調整はキーボードでも操作できます。

Fn＋F6キー
：内蔵スピーカからの音が大きくなります。

Fn＋F7キー
：内蔵スピーカからの音が小さくなります。

【サウンドとオーディオデバイスのプロパティ】ダイアログの[スピーカー音量]タグ画面で、ステレオスピーカの左右の音量を別々に調整できます。

録音をする

オーディオ機器などから音声を録音するときは、Windows XPの「サウンドレコーダー」を使用します。録音した音声は、ファイルとして、本機のハードディスクに保存できます。

1 **「スタート」ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[サウンドレコーダー]の順に選択します。**

【サウンドレコーダー】ダイアログが表示されます。

2 **録音を始めるときは、●ボタンをクリックします。**

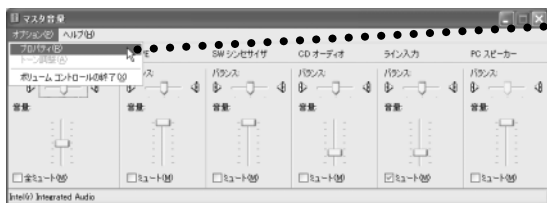
録音の音量を調整するには

本機に入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows XPのボリュームコントロールで調整します。

1

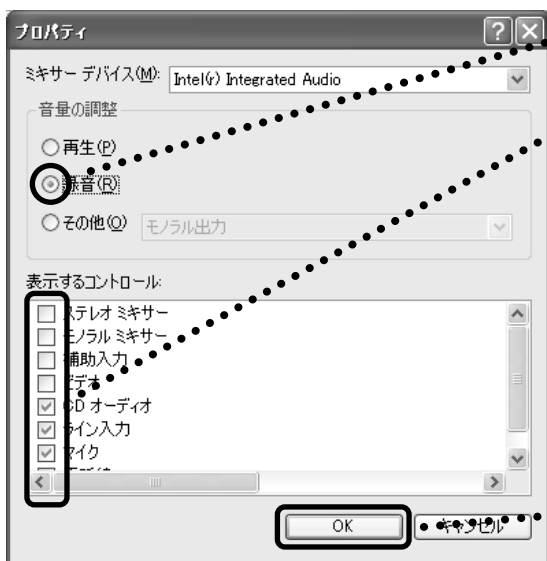
タスクトレイ上にある をダブルクリックします。

【マスタ音量】ウィンドウが表示されます。

2

マスタ音量の[オプション]から、[プロパティ]を選択します。

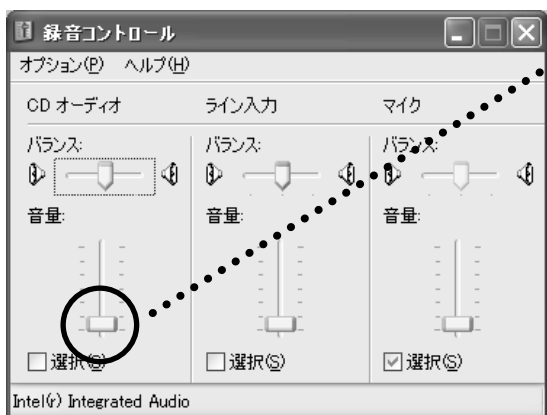
3

4

5

録音を選択します。

音量を調整するデバイスにチェックマークをつけます。

[OK]ボタンをクリックします。

6

選択したデバイスのスライダをドラッグして、音量を調整します。

STEP2 使ってみよう

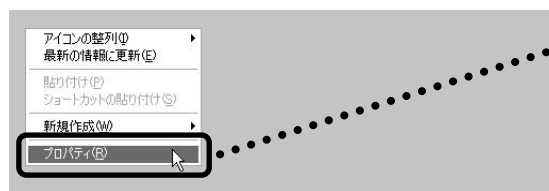
6 画面の解像度を変える

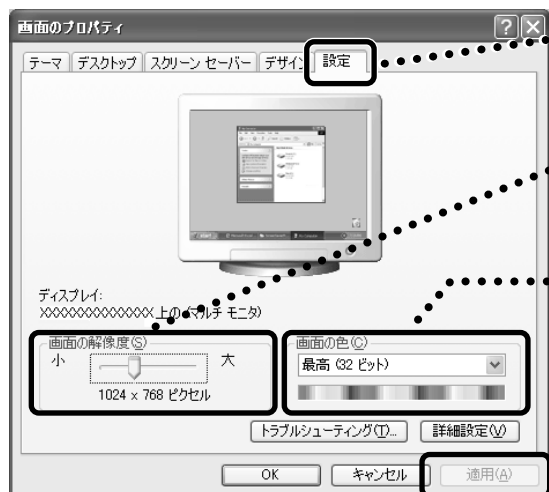
ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示させることができます。ここでは本機の解像度やフォントの大きさといった、画面の設定の変更方法について説明します。

出荷時の設定

本機の画面は、次の解像度で初期設定されています。

	初期設定
表示ディスプレイ	本体ディスプレイ表示のみ
画面の解像度	1024×768ピクセル
画面の色	中(16ビット)

解像度や色数を変更する場合

1. **デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。**

   【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。

2. **[設定]タブを選択します。**
3. **を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。**
4. **ボタンをクリックし、画面の色(表示する色数)を選択します。**
5. **[適用]ボタンをクリックします。**

6. **変更を確認するダイアログが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。**

フォントサイズを変更する場合

1 **【画面のプロパティ】ダイアログで[デザイン]タブを選択します。**

2 **▼をクリックし、フォントの大きさを選択します。**

3 **[適用]ボタンをクリックします。**

しばらくするとフォントサイズが変更されます。

アプリケーションソフトによっては、インストール時などに自動的に画面設定が変更される場合があります。アプリケーションソフトに適した画面設定の変更方法については、アプリケーションソフトの取扱説明書をよくお読みください。

7 省電力機能を利用する

省電力機能の使用方法を説明します。

省電力機能について

本製品には２種類の省電力機能があります。
使用状況に応じてご利用ください。

スタンバイ

ハードディスクドライブ、本体ディスプレイ、本体ディプレイのバックライトの電力消費を最小にする機能です。
スタンバイ機能は、少しの間席をはずすときなどに、バッテリの消費を抑えるのに役立ちます。

休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、電源を切る機能です。
次に起動するときに、作業を中断する前の状態で立ち上がります。

スタンバイの設定

スタンバイに入るには次の５つの方法があります。

- 「スタート」メニューからスタンバイに入る(初期設定)
- 電源ボタンでスタンバイに入る
- 液晶ディスプレイを閉じてスタンバイに入る(初期設定)
- キーボードからスタンバイに入る(初期設定)
- 自動的にスタンバイに入る

「スタート」メニューからスタンバイに入る方法

1 **「スタート」メニューから[終了オプション]をクリックします。**

2 **[スタンバイ]を選択します。**

これでスタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押します。

電源ボタンでスタンバイモードに入る方法

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

2 **[詳細設定]タブをクリックします。**

3 **「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。**

4 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで本機の電源ボタンを押すと、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイに入る方法

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

電源オプションのプロパティ
電源設定　アラーム　電源メーター　詳細設定　休止状態
使用する省電力設定を選んでください。
オプション
アイコンをタスク バーに常に表示する(S)
スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める(P)
電源ボタン
ポータブル コンピュータを閉じたとき(W):
スタンバイ
コンピュータの電源ボタンを押したとき(E):
スタンバイ
コンピュータのスリープ ボタンを押したとき(N):
スタンバイ
OK　キャンセル　適用(A)

2 **[詳細設定]タブをクリックします。**

3 **「電源ボタン」欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。**

4 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで液晶ディスプレイを閉じると、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

キーボードからスタンバイに入る方法

1 「電源ボタンでスタンバイに入る方法」の手順1.2を行います。

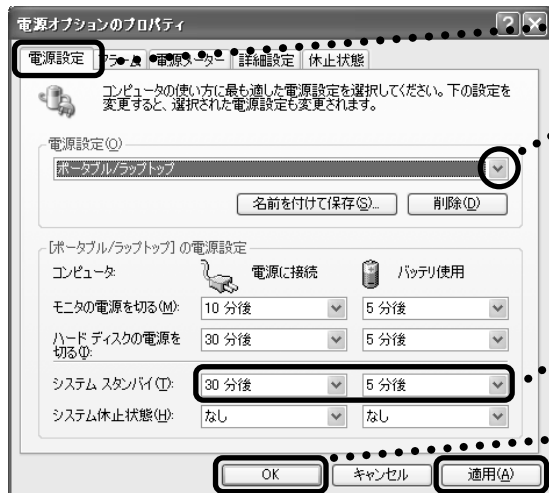
2 「電源ボタン」欄の「コンピュータのスリープボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

電源オプションのプロパティ
電源設定 アラーム 電源メーター 詳細設定 休止状態
使用する省電力設定を選んでください。
オプション
アイコンをタスク バーに常に表示する(S)
スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める(P)
電源ボタン
ポータブル コンピュータを閉じたとき(W):
スタンバイ
コンピュータの電源ボタンを押したとき(E):
シャットダウン
コンピュータのスリープ ボタンを押したとき(N):
スタンバイ
OK キャンセル 適用(A)

3 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これでキーボードのキーボードの[Fn]キーと[F4]キーを同時に押すと、スタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

自動的にスタンバイに入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [電源設定]タブをクリックします。

3 「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

4 「システムスタンバイ」欄にスタンバイに入るまでの時間を設定します。

5 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間、本機を操作しないでいると、自動的にスタンバイに入ります。
スタンバイから元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

休止状態の設定

休止状態に入るには次の５つの方法があります。

- 「スタート」メニューから休止状態に入る
- 電源ボタンで休止状態に入る(初期設定)
- 液晶ディスプレイを閉じて休止状態に入る
- キーボードから休止状態に入る
- 自動的に休止状態に入る

「スタート」メニューから休止状態に入る方法

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]の順に選択します。**

2 **Shift キーを押すと、[スタンバイ]が[休止状態]に変わりますので、Shift キーを押しながら[休止状態]ボタンをクリックします。**

これで休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

電源ボタンで休止状態に入る方法

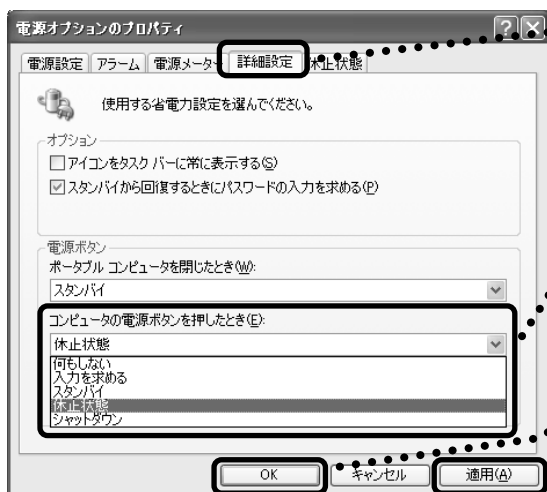
1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

2 **[休止状態]タブをクリックします。**

3 **「休止状態を有効にする」にチェックを入れて、[適用]ボタンをクリックします。**

4

[詳細設定]タブをクリックします。

5

「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

6

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これで、本機の電源ボタンを押すと、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

液晶ディスプレイを閉じて休止状態に入る方法

1

「電源ボタンで休止状態に入る方法」の手順1、2を行います。

2

「電源ボタン」欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「休止状態」に設定します。

3

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

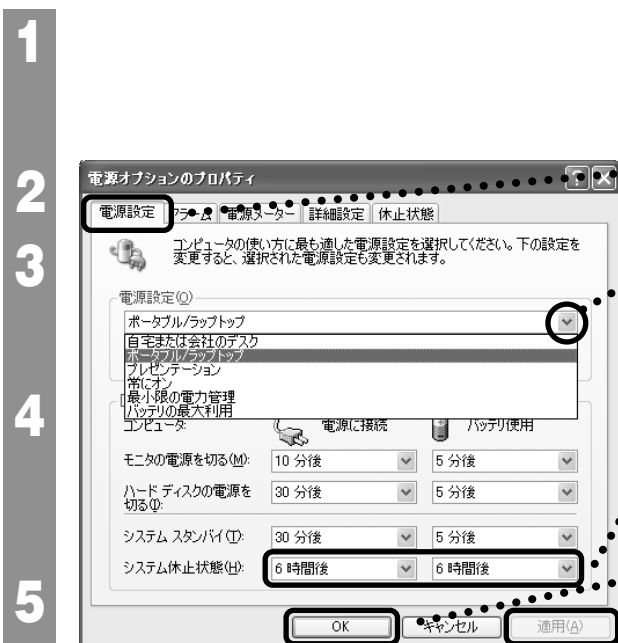
これで液晶ディスプレイを閉じると、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

キーボードから休止状態に入る方法

1 「電源ボタンで休止状態に入る方法」の手順1.2を行います。

2 「電源ボタン」欄の「コンピュータのスリープボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

3 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これでキーボードのキーボードのFnキーとF4キーを同時に押すと、休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

自動的に休止状態に入る方法

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。

2 [電源設定]タブをクリックします。

3 「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

4 「[ポータブル/ラップトップ]の電源設定」で、「システム休止状態」欄の時間を設定します。

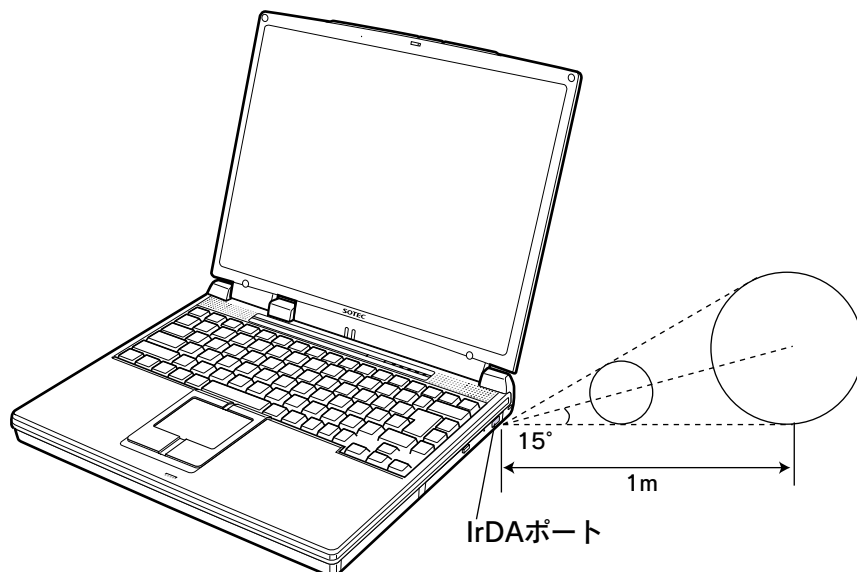
5 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間コンピュータを操作しないでいると、自動的に休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択します。

8 赤外線通信ポートを使う

本機には、赤外線でデータを送受信するための「IrDA」規格に準拠した赤外線通信ポートがあります。赤外線通信ポートを装備した他の機器とは、ケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。

赤外線通信ポートの通信範囲

本機の右側面にある赤外線通信ポートと他の機器の赤外線通信ポートが向かい合うように配置します。

赤外線通信ポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m以内になるように配置してください。また、通信中にポート間をさえぎると、通信不能になります。

赤外線通信ポートを有効にする

赤外線通信ポートが使用できない状態のときは、次の設定を行ってください。

ワイヤレス リンク

赤外線 | イメージの転送 | ハードウェア

☑赤外線の状態を示すアイコンをタスク バーに表示する(I)
☑赤外線デバイスが近くにあるときに音を鳴らす
ファイルの転送オプション
☑赤外線通信によるファイルの受信を可能にする(L)
☑ファイルを受信している間通知する(N)
受信したファイルの既定の保存先:
参照(B)...
ワイヤレス LAN 設定を構成するには、ネットワーク接続を開いてください。
OK | キャンセル | 適用(A)

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[ワイヤレスリンク]の順に選択します。**

2 **ここをチェックすると、赤外線通信の状態を表示するアイコンがタスクバーに配置されます。**

3 **ここをチェックすると、赤外線通信ができる状態になります。**

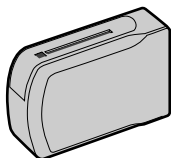
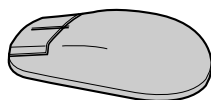
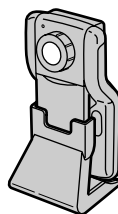
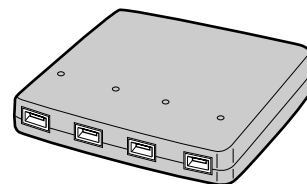
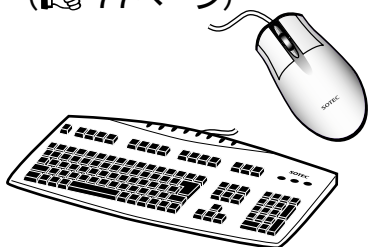
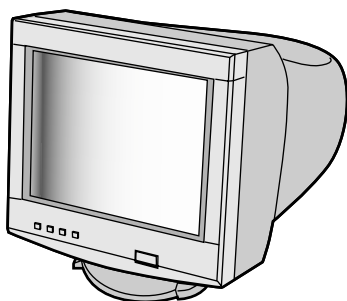
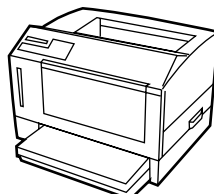
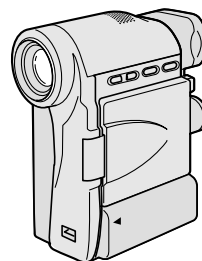
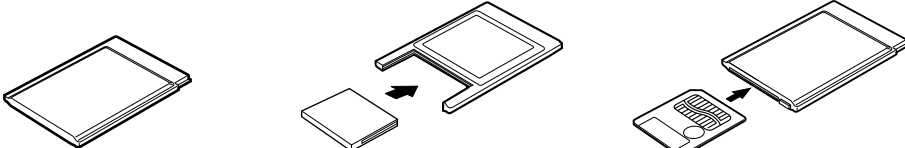
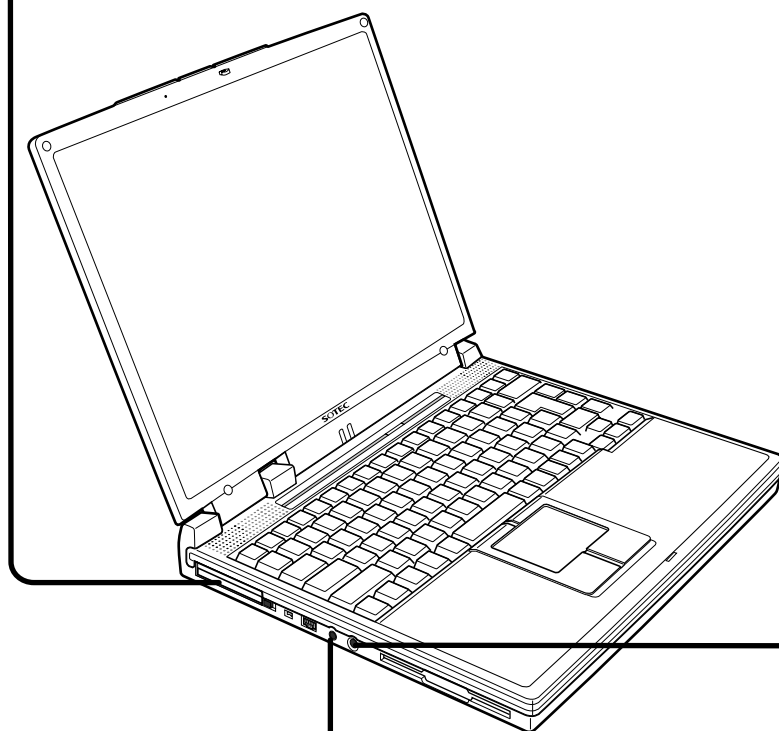
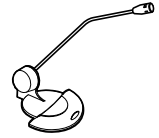
4 **[適用]ボタンをクリックします。**

STEP3

周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、WinBookと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。
さまざまな周辺機器と接続することで、WinBookをより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

1 使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

STEP3

周辺機器を使いこなす

外部スピーカ(アンプなし)やヘッドホンを接続することにより、パソコンから出力される音声をステレオで聞くことができます。

2 周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業をしなければならないことを説明します。

取り付けは電源をOFFにしてから

ケーブル類や、周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにし、電源ケーブルをACコンセントから取り外します。電源ケーブルが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電してしまう恐れがあります。

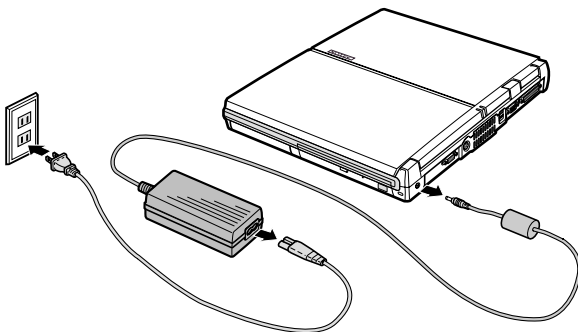
PCカード、USB対応の機器は、パソコンの電源をONにしたまま、取り付けや取り外しができます

1 **[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。**

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。

2 **[電源を切る]を選択します。**

電源がOFFになります。

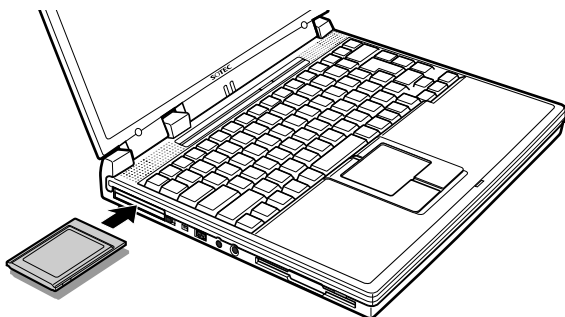
3 **電源ケーブルを取り外します。**

4 **周辺機器を取り付けます。**

本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

体の静電気を取り除いてください

基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

取扱説明書をよく読んでください

ユーザーズガイドをよく読んでください

オプションカードなどの取り外しや、取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前には本書をよくお読みください。

周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んでください

周辺機器に付属の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。

周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

プラグアンドプレイについて

Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。
プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。
用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

対応したデバイスドライバがすでにWindowsにある場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。

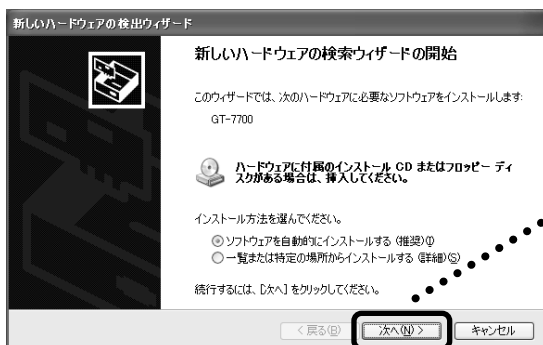
1

接続するだけで周辺機器が使えるようになります。

対応したデバイスドライバがWindowsにない場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、Windowsにない場合は、周辺機器に付属のCD-ROMディスクなどに収録されているデバイスドライバを用意し、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。(☞ 102ページ)

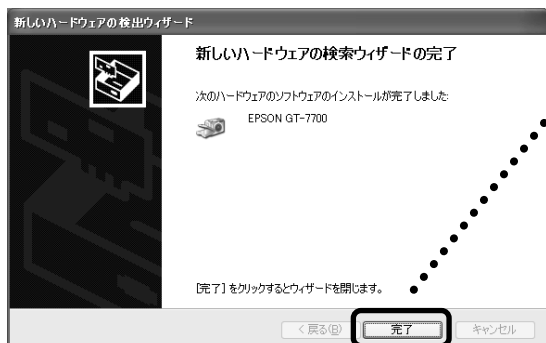
1

周辺機器を取り付けた後に、電源をONにすると、【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。

[次へ]ボタンをクリックします。

2

表示される指示に従って操作を行います。

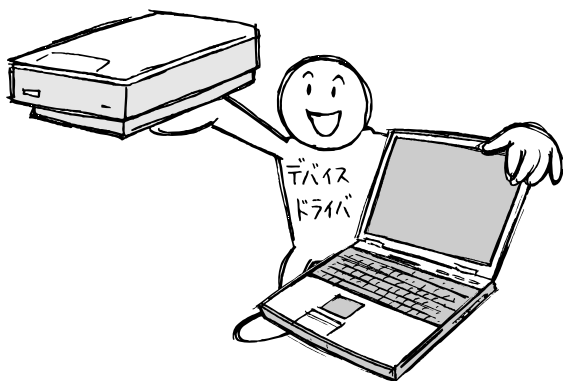
デバイスドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。

3

[完了]ボタンをクリックします。

これで、設定は無事終了しました。

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みやリソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

アドバイス

デバイスドライバとは

周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows XPに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMで提供されています)があります。また、周辺機器メーカのホームページから最新のものを入手することもできます。
最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

3 AV機器と接続する

ここでは本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

光デジタル対応の機器と接続する

光デジタル入力端子を装備しているオーディオ機器と接続することができます。
光デジタルケーブルを利用した、ノイズの少ないクリアなサウンドが楽しめます。

MDレコーダで音声を録音するには

本製品の光デジタル出力サンプリングレートは48KHzに固定されています。MDレコーダの機種によっては対応していない場合があります。録音するときは、サンプリングレート48KHz対応の機種を使用してください。また、録音したものは個人で楽しむほかは、著作権法により、著作者に無断で使用することはできません。

1

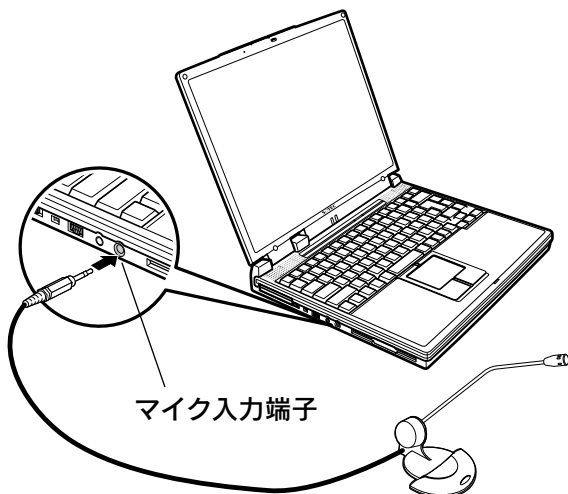
光デジタル出力端子
(SPDIF)

光デジタルケーブルを使用して、本機の光デジタル出力端子(SPDIF)とオーディオ側の光デジタル入力端子を接続します。

・光デジタルケーブルはお近くの電器店でお求めください。
・光デジタル対応のオーディオ機器にはヘッドフォンのほかにスピーカやオーディオコンポなどがあります。

マイクロホンと接続する

市販のマイクロホンを接続して、マイクロホンから自分の声を録音できます。

1

マイクロホンは側面のマイク入力端子( )に接続します。

マイクロホンはモノラルタイプのミニプラグ付マイクロホンを、電器店などで購入してください。

ハウリングの防止方法

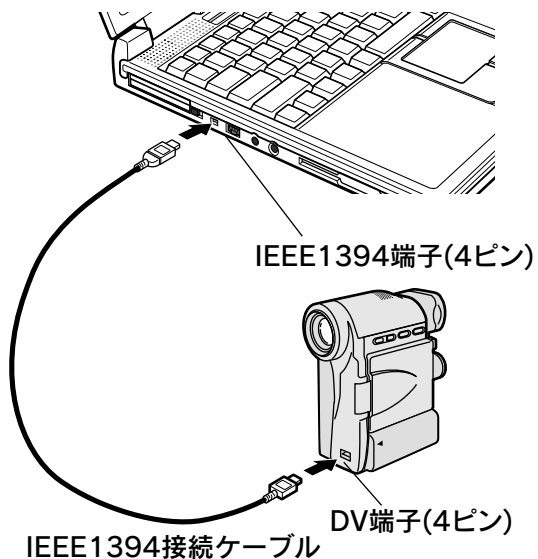
スピーカにマイクロホンを近づけると、スピーカとマイクロホンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これをハウリングといいます。ハウリングは、マイクロホンをスピーカから遠ざけるか、入力レベルを小さくする(ボリュームコントロールで調整)ことで防ぐことができます。

デジタルビデオと接続する

本機のIEEE1394端子(4ピン)と、DV端子を持つデジタルビデオを接続して映像および音声を取り込んだり、映像および音声をデジタルビデオに出力できます。

1

IEEE1394端子(4ピン)

DV端子(4ピン)

IEEE1394接続ケーブル

本機のIEEE1394端子(4ピン)と4ピンのDV端子を持つデジタルビデオを、市販のIEEE1394接続ケーブルで接続します。

IEEE1394は、DV端子とも呼ばれています。

4 PCカードを使う

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

PCカードとは

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

カード規格について

PCMCIA(Personal Computer Memory Card International Associationの略)は、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。

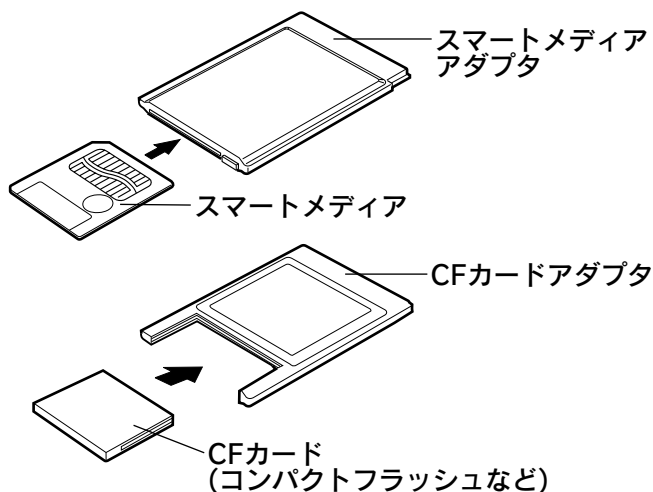
PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。

カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があります。

PCカードを使うには、本製品に、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。
どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

CardBus規格について

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本製品のPCカードスロットはCardBusをサポートしています。

カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPE Ⅰ(厚さ3.3mm)、TYPE Ⅱ(厚さ5.0mm)、TYPE Ⅲ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。

本製品では、TYPE Ⅱのカードを1枚、またはTYPE Ⅲのカードを1枚装着することができます。

スマートメディアやCFカードを装着する場合は、別売のアダプタを使用してください。

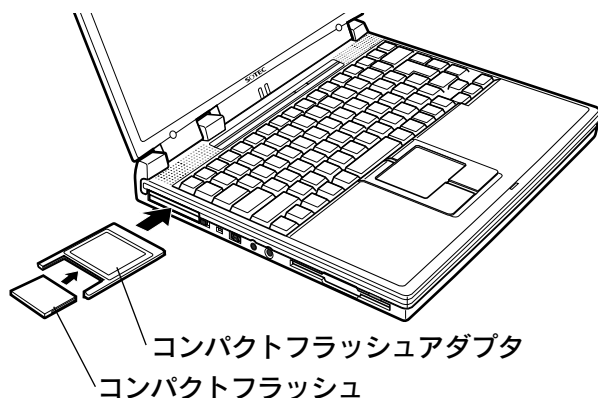
STEP3 周辺機器を使いこなす

PCカードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体などに使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

コンパクトフラッシュを使ってみる

本機の電源をONにした状態で、PCカードを差し込むと、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、PCカードを使い始めることができます。

1

本機のPCカードスロットに、PCカードを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをPCカードと呼びます。PCカードを差し込むと、PCカードイジェクトボタンが出てきます。

PCカードは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

しばらくすると、自動的に認識されます。コンパクトフラッシュなど画像が保存されているメディアを差し込むと、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。

2

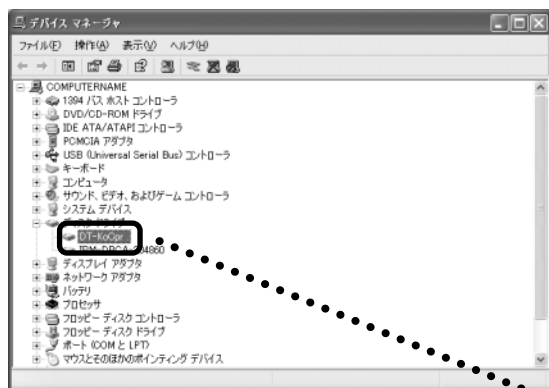
実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

正しく認識できたか確認する

差し込んだPCカードが、正しく認識されているかどうかを確認します。

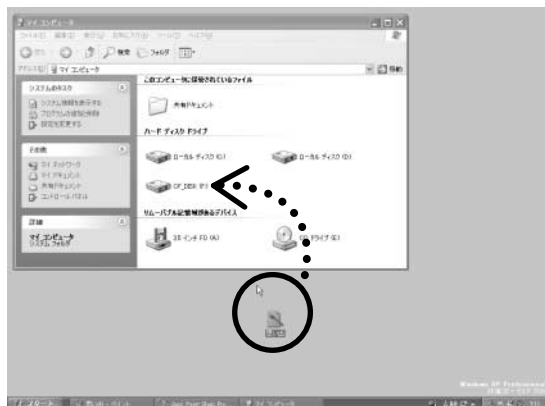
●マイコンピュータで確認する
例として差し込んだPCカードは、ファイルを保存するためのハードディスクのような機器なので、【マイコンピュータ】の中に新しいハードディスクのアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器がアイコンとして表示されているのを確認します。

●デバイスマネージャで確認する
コンパクトフラッシュは、「マイコンピュータ」に追加されたアイコンで確認できますが、差し込んだPCカードの種類によって、確認の方法は異なります。一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、[ハードウェア]タブの画面から、【デバイスマネージャ】ウィンドウを表示させて、差し込んだPCカードが登録されていれば、正しく認識されています。詳しくは、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

差し込んだPCカードが表示されます。

アドバイス

PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

ファイルをコピーしてみる

ハードディスクとして認識されたコンパクトフラッシュやスマートメディアのファイルは、ドラッグアンドドロップすることで、他のディスクにコピーできます。

PCカードの取り出し

PCカードへのアクセス中に、本機からPCカードを抜いたりすると、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

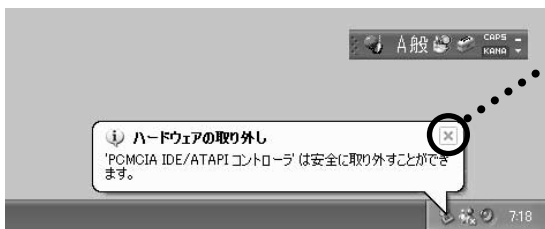
1

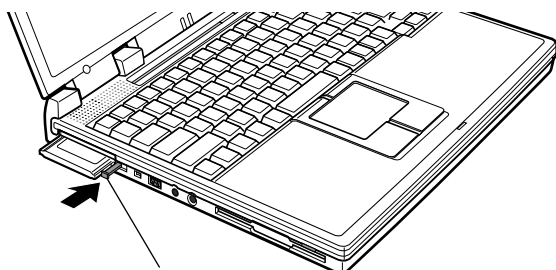
デスクトップ右下(タスクトレイ)の のアイコンをクリックします。

2

[PCMCIA IDE/ATAPI コントローラードライブを安全に取り外します]を選択します。

表示される名前は、差し込んでいるPCカードによって異なります。

3

次のダイアログが出たら[x]ボタンをクリックします。

4

PCカードイジェクトボタンを押し込みます。

PCカードがPCカードスロットから少し出てきます。

5

PCカードをゆっくりと引き抜きます。

PCカードイジェクトボタン

5 USB対応の周辺機器を使う

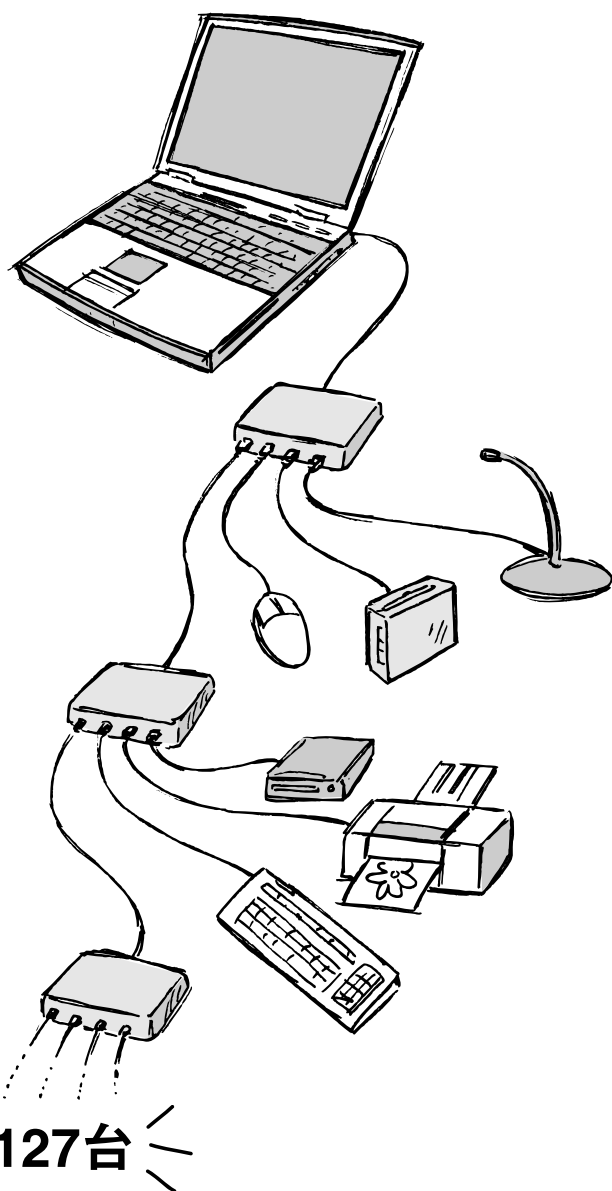
USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、USB機器を本機で使用するための準備作業について説明します。

USB(ユーエスビー)とは

USBとはUniversal Serial Busの略で、USBに対応する機器を、最大127台まで接続できるインターフェースです。

本機には、USBポートが2つ用意されていますが、市販のUSBハブを複数使用することで、最大127台(USBハブを含む)のUSB機器を接続できます。

USB機器の特長は、なんといっても本機の電源をONにしたまま、取り付け、取り外しができることでしょう。ふだんは取り外しておいて、必要なときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができます。

本機のUSBポートは、USB1.1の規格に対応しています。USB2.0の規格のUSB機器は使用できません。

USB機器を接続する手順

ここでは、USB対応のスキャナを例に、本機に接続して使用するまでの手順を説明します。

USBコントローラを確認する

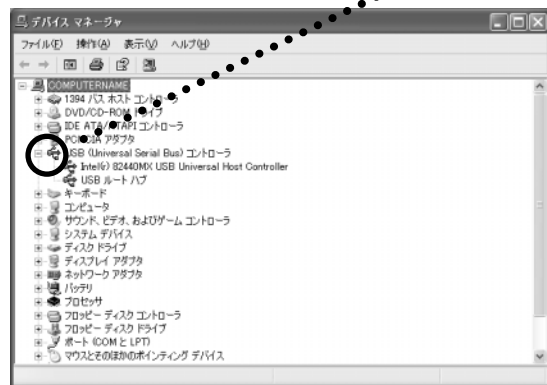
WindowsXPを起動して、USBポートそのものをコントロールするためのデバイスドライバが有効になっているかを確認します。

1 [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]の順に選択します。

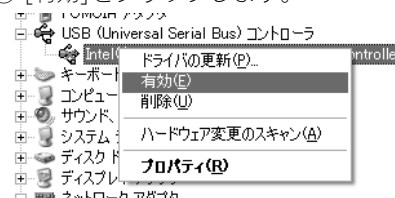
2 [ハードウェア]タブをクリックします。

3 [デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

4 [USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の ⊞ の部分をクリックし、⊟ に変更します。

のマークに×がついていないか確認します。

USBポートが使用できない状態の場合は

① ×印がついているUSBポートを選択し、右クリックします。

② [有効]をクリックします。

これで、USBポートが使用できる状態になります。

USB機器を接続する

本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。

コネクタを差し込む前に、デバイスドライバをインストールするUSB機器があります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。

1

本機のUSBポートに、USB機器のコネクタを差し込みます。

本機には、背面に2つのUSBポートを用意しています。どちらのUSBポートを使用しても構いません。コネクタには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。

USBポートが足りないときは

USBポートが2つでは足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。

☞「複数のUSB機器を接続する」(73ページ)

USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、3秒以上時間をおいてから、再度差し込んでみてください。

しばらくすると、自動的に必要なデバイスドライバを読み込み始めます。

上記の方法で画面の表示が切り替わらないときは、Windowsを再起動させ、再度USB機器を接続してください。

2

表示される指示に従って操作します。

USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書を読むか、USB機器販売メーカにお問い合わせください。

3

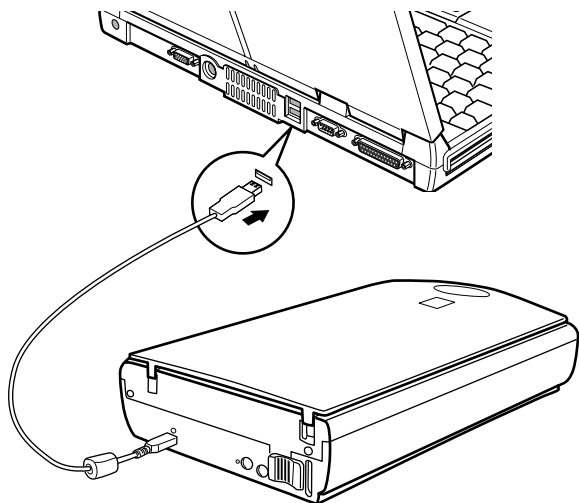
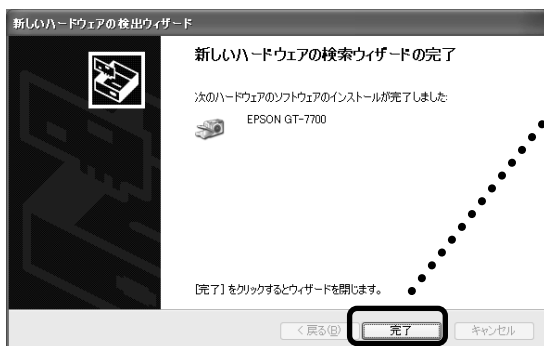
新しいハードウェアの検出ウィザード

新しいハードウェアの検索ウィザードの完了

次のハードウェアのソフトウェアのインストールが完了しました:

EPSON GT-7700

[完了] をクリックするとウィザードを閉じます。

< 戻る(B) 完了 キャンセル

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。

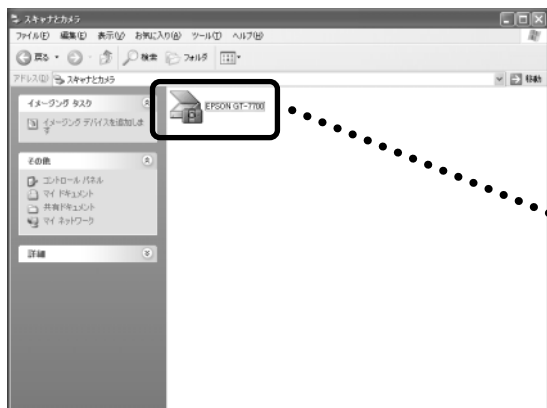
[完了]ボタンをクリックします。

USB機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

USB機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からはUSBポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログは表示されません。

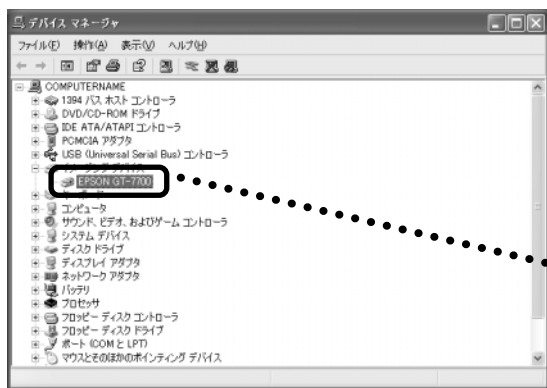
USBポートごとにUSB機器が管理されるため、前回とは異なるUSBポートにUSB機器を接続すると【新しいハードウェアの検索ウィザード】が表示されることがあります。その場合はメッセージに従って操作してください。

正しく接続できたか確認する

接続したUSB機器が、正しく認識されているかどうかを確認します。

■マイコンピュータで確認する

例として接続したスキャナは、[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[スキャナとカメラ]にアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器のアイコンが表示されていることを確認します。

STEP3 周辺機器を使いこなす

■デバイスマネージャで確認する

一般的に、[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]を選択し、[ハードウェア]タブ画面から【デバイスマネージャ】を表示させて、接続したUSB対応機器が登録されているか確認します。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

接続したUSB機器が表示されていることを確認します。

名前は接続した機器によって異なります。

USB機器によっては、接続後、さらに別の設定が必要なものがあります。USB機器に付属の取扱説明書をお読みください

複数のUSB機器を接続する

市販のUSBハブを使えば、1つのUSBコネクタを4つのUSBコネクタに分岐して増やすことができます。このUSB ハブを何台も使えば、USBハブも含めて最大127台(パソコン1台あたり)までの機器を接続できます。
ここでは、USBハブを使用し、複数のUSB機器を接続する方法について説明します。

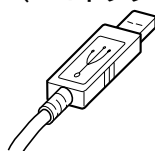
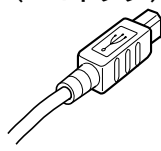
バスパワーとセルフパワーについて

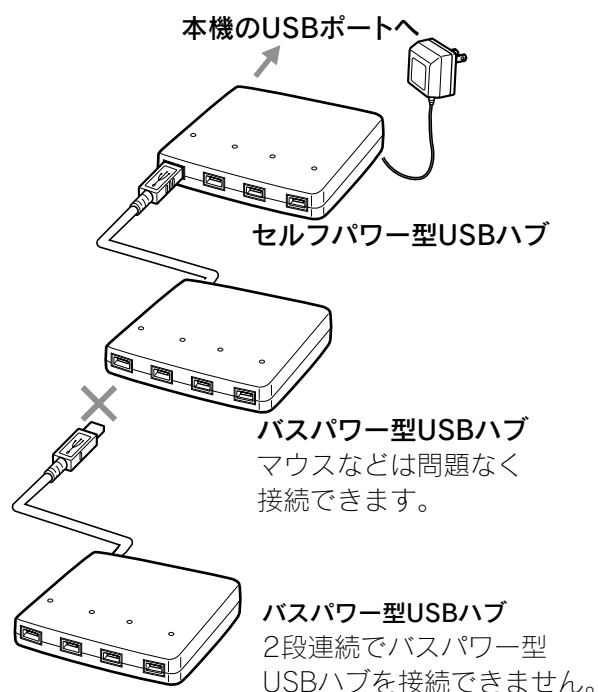
USB機器は、機器自身が動作するために必要な電流の大きさによって、次のタイプに分かれます。USBハブを使う場合は、お持ちのUSB機器がどのタイプかを確認することが必要です。

■バスパワー型
機器自身では電源を持たず、動作に必要な電流をUSBコネクタから消費して動作します。消費電流は100mA以下です。

■セルフパワー型
USB機器自体の消費電流が多く、USBコネクタからの電流では動作できないため、機器にACアダプタの接続が必要です。

アップストリームとダウンストリームのコネクタについて

アップストリームポート用コネクタ（Aコネクタ）

ダウンストリームポート用コネクタ（Bコネクタ）

通常USBハブには、本機(上流)のUSBコネクタから電流を受けるために接続するポート(アップストリームポートという)と、数珠つなぎにUSB機器をつなげるためのポート(ダウンストリームポートという)があります。それぞれのポートに接続するための、USBケーブルのコネクタ形状は、次のイラストのように形状が異なります。

USBハブを使った接続例

セルフパワー型の次に、バスパワー型の機器というように交互に接続できます。
バスパワー型の機器を2段連続で接続すると、接続するUSB機器によっては、使用できないものがありますので、注意してください。

USBハブの詳しい使用方法は、USBハブの取扱説明書をお読みください。

6 メモリの増設

複数のアプリケーションを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

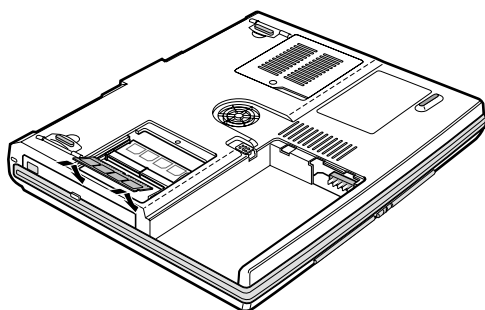
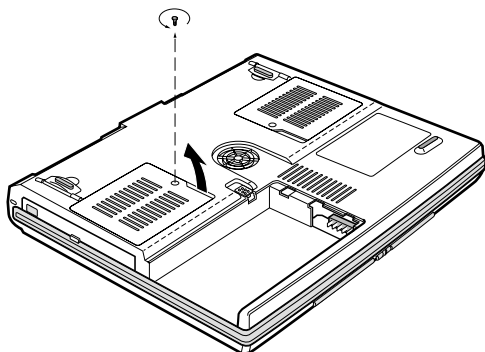
メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションの動作も快適になります。

メモリが少ないと・・・

本機で使用できるメモリ

本機には拡張メモリスロットが2スロットあり128MBのメモリを2枚搭載して最大256MBのメモリを搭載することができます。

専用拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。
他社製のRAMモジュールを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。

メモリの取り付けと取り外し

チェック 装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにして、内蔵バッテリを取り外してください。

1 **ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返しにします。**

2 **ネジを外し、メモリカバーを外します。**

3 **拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。**

チェック 拡張モジュールは差し込む向きがあります。向きを間違えないようにしてください。

4 **メモリカバーを装着し、バッテリパックを装着します。**

5 **電源をONにすると、RAM容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。**

6 **F2 を同時に押して、BIOSセットアッププログラムを表示させます。**

システムが装着された拡張RAMモジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

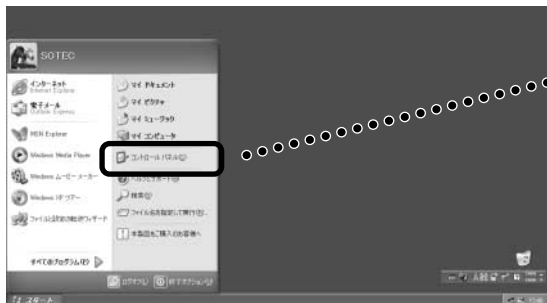
7 **【Exit】→【Exit Saving Changes】を選び、BIOSセットアッププログラムを終了させます。**

参照 Save and Exitの詳しい操作方法については、「付録 BIOSを設定する」(☞ 118ページ)をお読みください。

STEP3 周辺機器を使いこなす

増やしたメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。

1 **電源をONにします。**

2 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。**

3 **[パフォーマンスとメンテナンス]を選択します。**

4 **[システム]を選択します。**

5 **ここに表示されている数字を確認します。**

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかを確認してください。

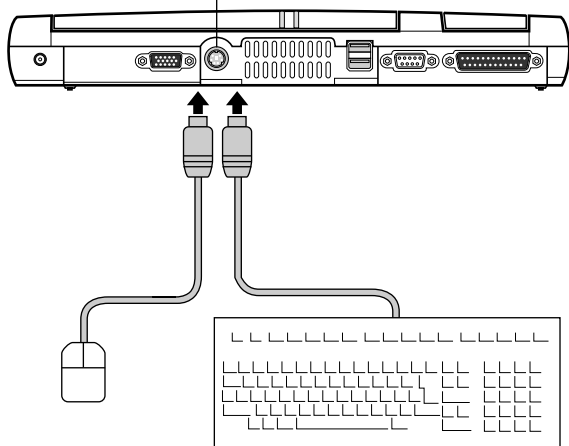
7 外部キーボードやマウスを接続する

本機には、外部キーボードまたはマウスを接続するためのポートが装備されています。
このポートには、PS/2用のキーボードまたはマウスを接続することができます。

1

本機の電源をOFFにします。

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・レジュームや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、[コンピュータの電源を切る]から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。(☞ 26ページ)

2

本機背面にある外部キーボード/マウスポートに、外部キーボード、マウスのケーブルを接続します。

接続されたキーボードとマウスは、自動的に認識されます。

アドバイス

本機に接続したマウスまたはキーボードは、[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[マウス](または[キーボード])を選択して、マウスの移動速度や、キー入力の速度間隔を調整できます。調整方法についての詳細はWindowsのヘルプをご覧ください。

■[マウス]の調整画面

■[キーボード]の調整画面

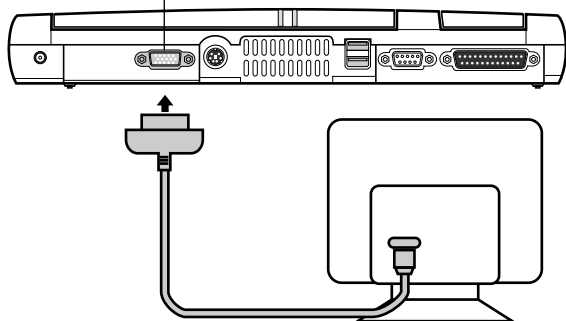
8 外部ディスプレイを接続する

本機には、外部ディスプレイを接続するためのポートが装備されています。

1

本機の電源をOFFにします。

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・レジュームや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、[コンピュータの電源を切る]から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。(☞ 26ページ)

2

本機の背面にあるアナログCRTポートに、外部ディスプレイのケーブルを接続します。

・本機の電源を入れてから、外部ディスプレイの電源を入れてください。
・外部ディスプレイを接続した場合、Windowsのコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」を設定変更が必要なときがあります。
・本体ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示する場合、接続する外部モニタは、設定したデスクトップ領域(解像度)をサポートするものを使用してください。

一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F4キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。

STEP4

インターネットとホームネットワーク

インターネットは、「ブロードバンド」と呼ばれる高速通信接続サービスの普及により、今までと違った楽しみ方が生まれつつあります。また、パソコンの普及率も高くなり、家庭内で複数のパソコンを所有することも珍しくなくなりました。複数のパソコンでネットワークを構築すれば、ひとつのインターネット回線やプリンタを複数のパソコンで共有できるようになります。ここではインターネットとホームネットワークの概要を説明します。

1 インターネットに接続しよう

インターネットでは、世界中のさまざまな情報を自由に見ることができます。
また、あなたのパソコンから世界中に情報を発信することもできます。

インターネットでできること

インターネットにはいろいろな使い方があります。ここではその一例を紹介します。

ショッピングをする

Webページを持っている世界中のお店で、時間や距離を気にせず、いつでもどこでも、ショッピングが楽しめます。欲しい商品を探す、注文する、配達してもらうなど、すべてのやり取りが、簡単にインターネットを通じて行えます。

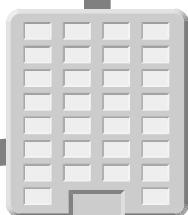
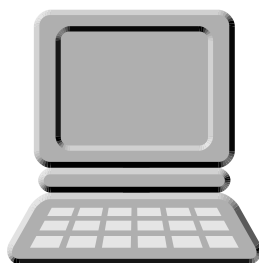
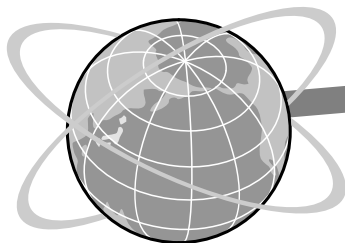
電子メールをする

インターネットにつながったコンピュータどうしで、電子メールのやりとりができます。
お互いの電子メールアドレスを交換すれば、親しい友人や仕事仲間だけでなく、インターネット上で知り合った人にも、電子メールを送ることができます。

情報を発信する

自分のWebページを作って、世界中の人々に情報を発信することができます。インターネットを通じて自分の意見を知らせたり、同じ趣味を持つ仲間を集ったりすることができます。

新聞、テレビ、ラジオを見る

世界中のマスコミやメディアが独自のWebページを提供しています。ニュース番組や新聞記事に対する感想を一般から集めたり、番組や記事の内容を新聞や放送よりも詳しく、インターネット上で公開しています。

インターネットサービスプロバイダ(プロバイダ)

本機とインターネットとの接続を仲介します。インターネットを安全に利用するための設定等を代行してくれます。

プロバイダまでの接続方法

インターネットとの接続を仲介するインターネットサービスプロバイダへの接続方法はさまざまです。ここでは、アナログ電話回線以外の代表的な接続方法を紹介します。いずれの接続方法も接続サービス会社を通じて利用するのが一般的です。

ADSL

通信速度 ：1Mbps～8Mbps
(アナログ電話回線の約18～140倍速)

一般のアナログ電話回線の広域帯を利用した、アップロードとダウンロードの通信速度が非対称の接続サービスです。電話回線を利用できるので、導入工事が比較的簡単です。

ISDN回線

通信速度 ：64kbps
(アナログ電話回線の約1.1倍速)

日本全国のほとんどの場所に普及している接続サービスです。他の接続サービスにくらべて通信速度は劣りますが、デジタル回線を利用しているので、安定したインターネット通信ができます。

CATV

通信速度 ：256kbps～2Mbps
(アナログ電話回線の約4.5～35倍速)

ケーブルテレビのケーブル回線を利用した接続サービスです。接続サービス会社の選択の自由はありませんが、ケーブルテレビと同時に導入を申し込む場合などは、割安でサービスを受けられる場合もあります。

光ファイバー

通信速度 ：4Mbps～100Mbps
(アナログ電話回線の約70～1800倍速)

最大100Mbpsという超高速の通信を可能にする接続サービスで、次世代のインターネット接続サービスの中心と期待されています。ただし、サービスを開始している地域は限られています。

インターネットに必要なもの

インターネットを始めるには、次のものが必要になります。

通信機器

アナログ電話回線やISDN回線など、インターネットサービスプロバイダと物理的に接続するものです。インターネットサービスプロバイダへの接続方法により、必要なものは異なります。

プロバイダとの契約

プロバイダとは、インターネットと本機を仲介する役目を果たしているインターネット接続サービス会社のことです。プロバイダはインターネットを安全に利用するための設定等を代行してくれます。個人でインターネットを利用する場合は、契約する必要があります。

ソフトウェア(Internet Explorer & Outlook Express)

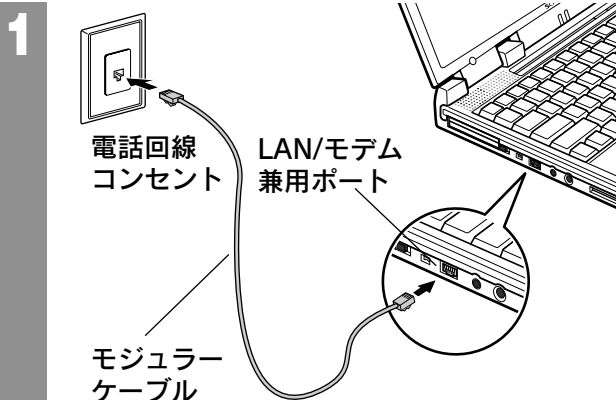
ホームページを閲覧するWebブラウザソフト「Internet Explorer」と、電子メールを送受信するメールソフト「Outlook Express」はWindows XPに付属しています。新たに準備する必要はありません。

インターネットに接続する

ここではアナログ電話回線を使ってインターネットに接続する方法を説明します。
その他の接続方法で接続する場合は、各接続サービス会社にお問い合わせください。

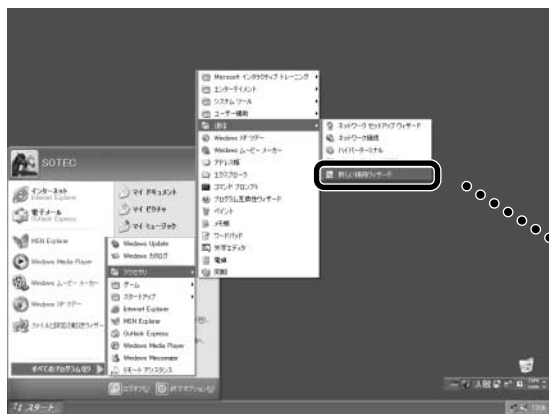
1

電話回線
コンセント

LAN/モデム
兼用ポート

モジュラー
ケーブル

本機左側面にあるLAN/モデム兼用ポートと電話回線コンセントを、市販のモジュラーケーブルで接続します。

・電話回線コンセントには、モジュラーケーブル以外は挿入しないでください。
・本機に内蔵のモデムは、V.90の規格に対応しています。V.90は、アナログ電話回線でプロバイダからユーザー側への通信方向のみ(データのダウンロード時など)、最高56000bpsの通信速度を実現しようという規格です。ユーザー側からプロバイダへの通信方向は最高33600bpsになります。なお、電話回線の状態が悪い場合、またはプロバイダがV.90に対応していない場合は、56000bpsで接続できません。

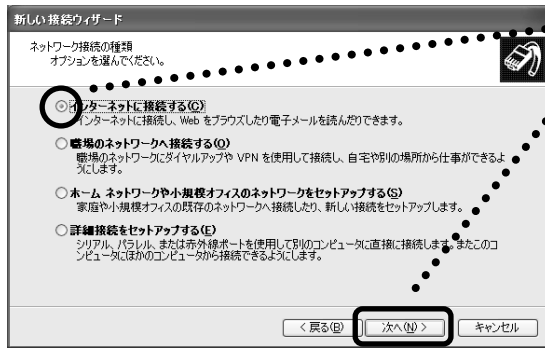
2

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[新しい接続ウィザード]の順に選択します。

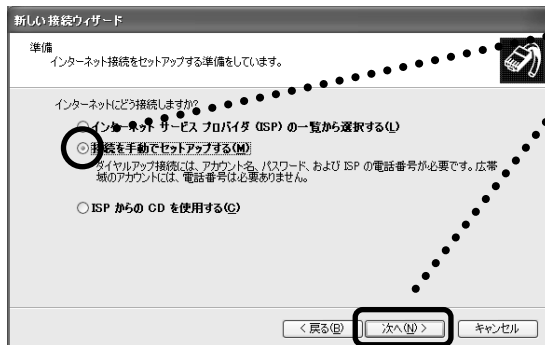
【新しい接続ウィザード】ダイアログが表示されます。

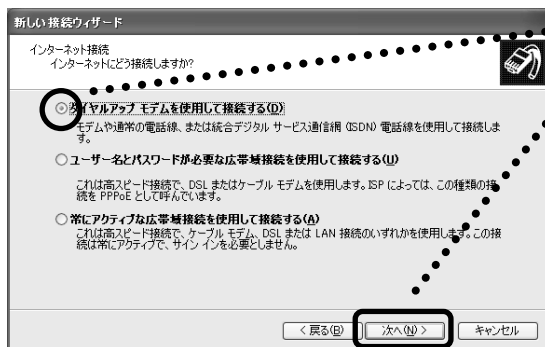
3

[次へ]ボタンをクリックします。

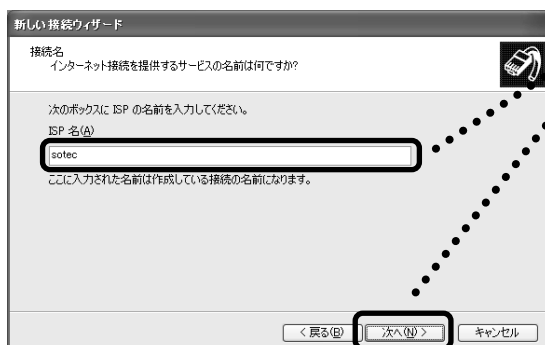
インターネットに接続する方法として、オンラインサインアップという方法があります。オンラインアップは、インターネットサービスプロバイダとの契約、およびインターネットに接続するまでの設定が同時にできます。[スタート]ボタンから[本製品をご購入のお客様へ]を選択し、[選ぼう!インターネット]をクリックすると、オンラインサインアップができる各種インターネットサービスプロバイダが表示されます。

4

「インターネットに接続する」にチェックを入れて、[次へ]ボタンをクリックします。

5

「接続を手動でセットアップする」にチェックを入れて、[次へ]ボタンをクリックします。

6

利用している通信方式にあわせて任意でチェックを入れて、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択します。

7

プロバイダの名前を任意で入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは例として「sotec」と入力します。

アドバイス

ISP名はどのような名前でも構いませんが、複数のプロバイダを利用する場合などは、それぞれを分かりやすく管理するために、プロバイダ名を入力するのが一般的です。

8 プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

9 「ユーザー名」にはプロバイダが提供するインターネットアカウント名を、「パスワード」および「パスワードの確認入力」にはプロバイダが提供するパスワードを、それぞれ入力します。

10 [次へ]ボタンをクリックします。

11 [完了]ボタンをクリックします。

インターネットへ接続するためのダイアログが表示されます。

12 [プロパティ]ボタンをクリックします。

【インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ】ダイアログが表示されます。

13 [ネットワーク]タブをクリックします。

14 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

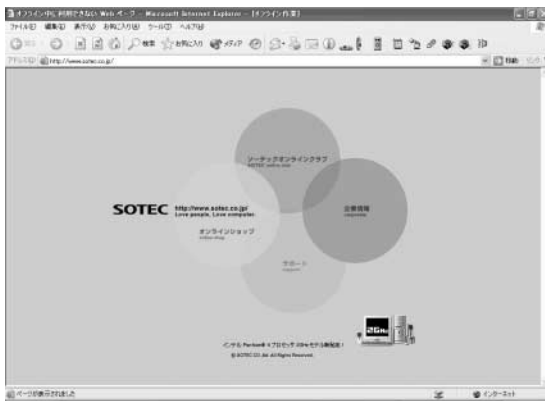
15 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを入れます。

16 プロバイダが指定するアドレスを入力します。

17 [OK]ボタンをクリックします。

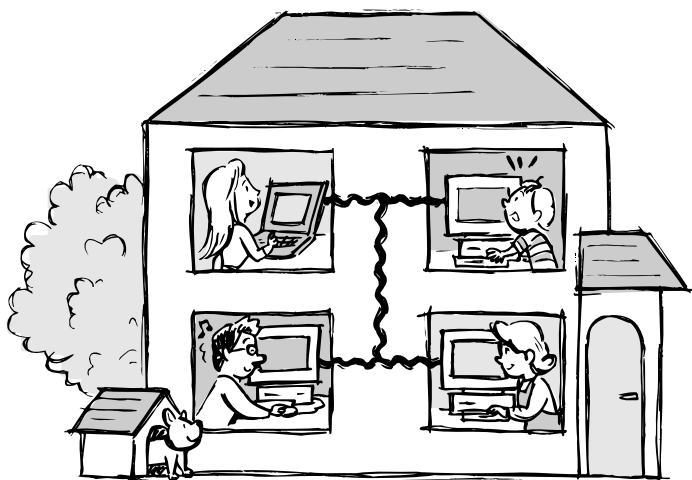
18 [OK]ボタンをクリックします。

19

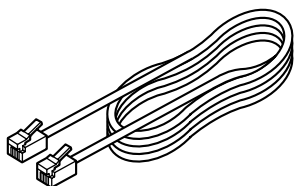
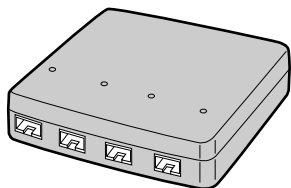
[ダイヤル]ボタンをクリックします。

正しく接続できると、ホームページが表示されます。

2 ホームネットワークを構築しよう

家にパソコンが複数ある場合、ホームネットワークの構築をおすすめします。
パソコンのハードディスク上にあるデータや、プリンタをすべてのパソコンで共有することが可能になります。

ホームネットワーク構築のメリット

複数のパソコンをネットワークで接続すると、それぞれのパソコンの使い勝手が大きく向上します。1つのインターネット回線やプリンタをすべてのパソコンで使用することができ、さらにはパソコン同士でデータをやり取りすることもできます。

構築に必要なもの

ネットワークを構築するには、次のものが必要です。

ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windowsネットワークシステムの技術者にご相談ください。

イーサネットケーブル

現在よく使われているのは10BASE-Tおよび100BASE-TXと呼ばれる規格のものです。
ネットワークケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの２種類がありますが、通常はストレートケーブルを使用します。

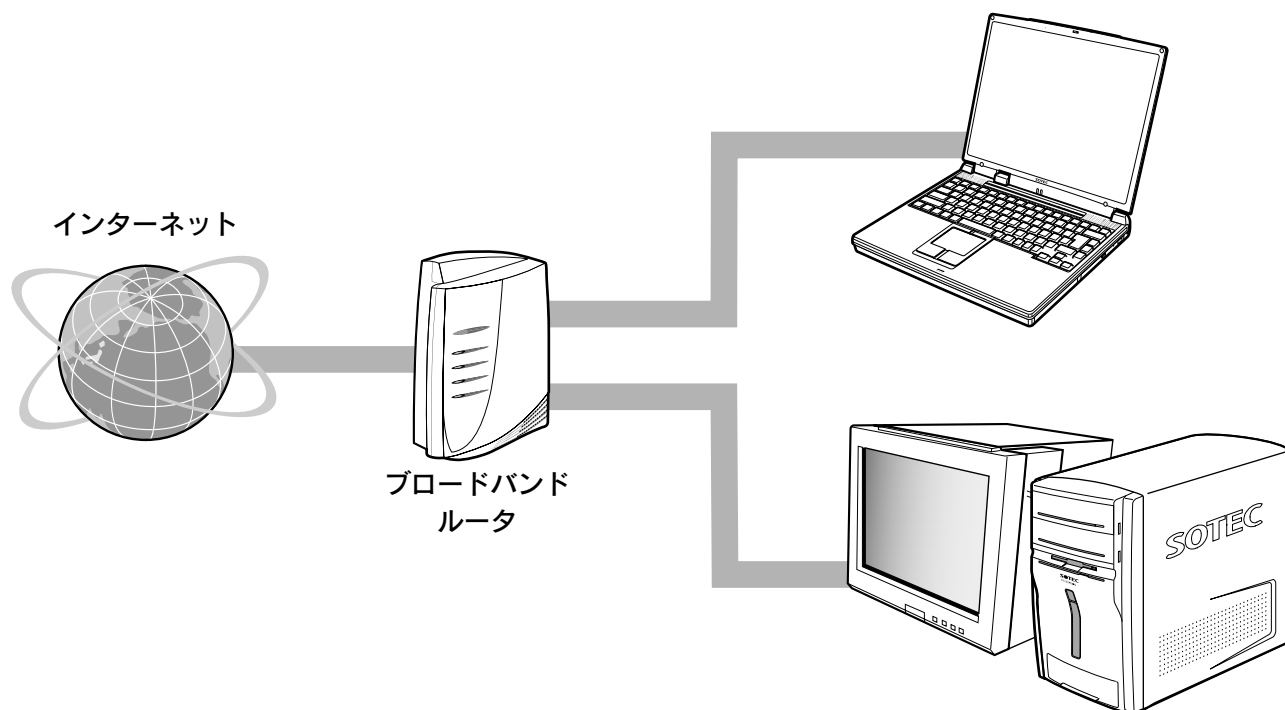
ハブ

複数のパソコンをネットワークに接続するための中継器です。10BASE-Tだけでなく、10BASE-Tと100BASE-TXを混在させて使用できるデュアルスピードハブもあります。

ブロードバンドルータ

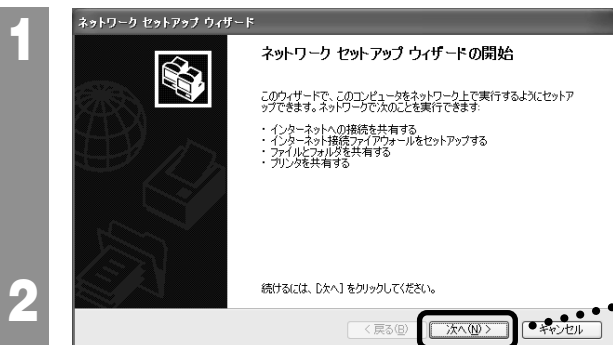
複数のパソコンでインターネットを同時接続するための中継器です。ブロードバンド対応のインターネット回線をホームネットワークで共有する場合に必要です。ブロードバンドルータにはハブも内蔵されていますので、ブロードバンドルータを導入した場合は、ハブは不要になります。

ネットワークを構築する

ネットワークを構築するための手順を説明します。ネットワークの構築方法は多くの種類がありますが、ここでは次の図のように、2台のパソコンをブロードバンドルータで構築することを想定して説明します。

ネットワークを設定する

ネットワークを構築するために、パソコン上で行う設定を説明します。

> **アドバイス** ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windowsネットワークシステムの技術者にご相談ください。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワークセットアップウィザード]の順に選択します。

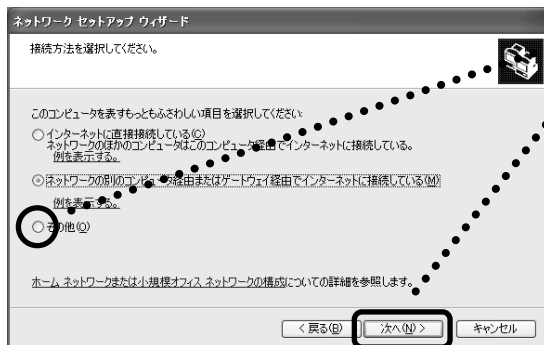
【ネットワークセットアップウィザード】ダイアログが表示されます。

2

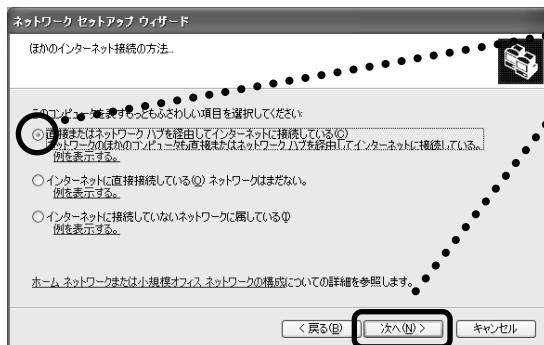
[次へ]ボタンをクリックします。

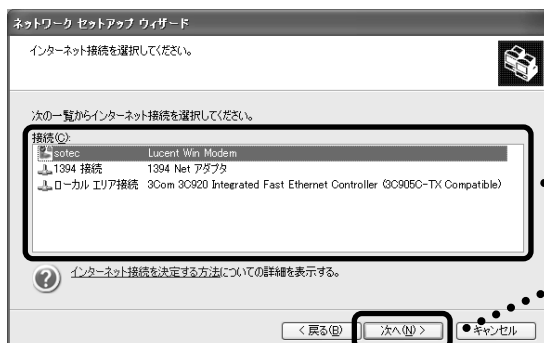
3

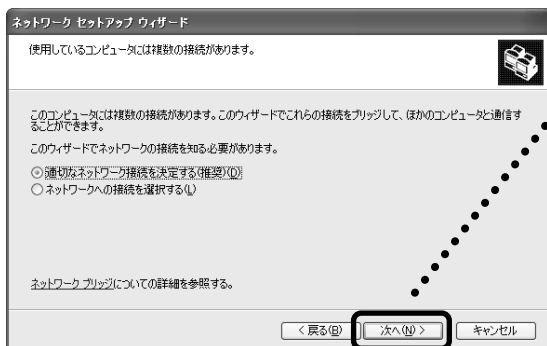
表示内容を確認したあと、[次へ]ボタンをクリックします。

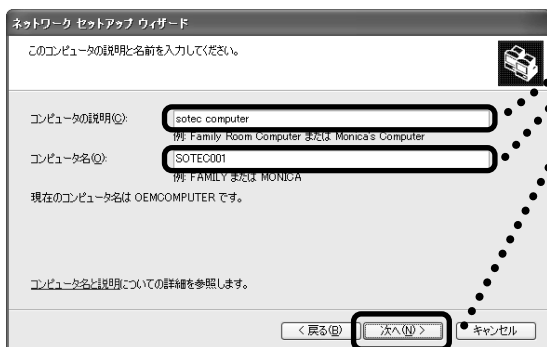
4

ネットワークの形態にふさわしいものを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

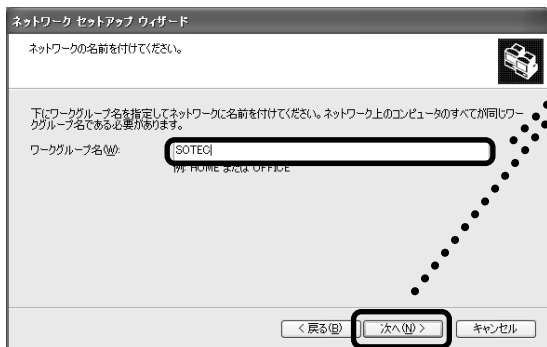
ここでは「その他」を選択します。

5

「直接またはネットワークハブを経由してインターネットに接続している」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

6

インターネットの接続に使用する通信機器を選択して[次へ]ボタンをクリックします。

7

「適切なネットワーク接続を決定する(推奨)」にチェックが入っていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

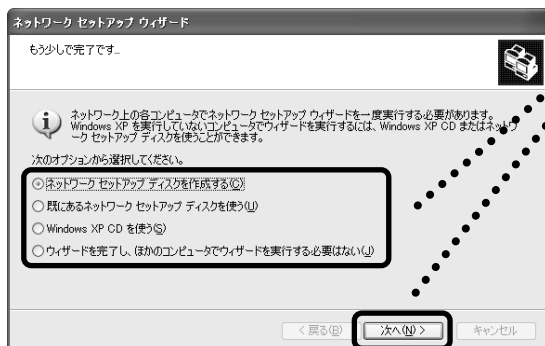
8

「コンピュータの説明」と「コンピュータ名」に任意で名前を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

9

「ワークグループ名」を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

10

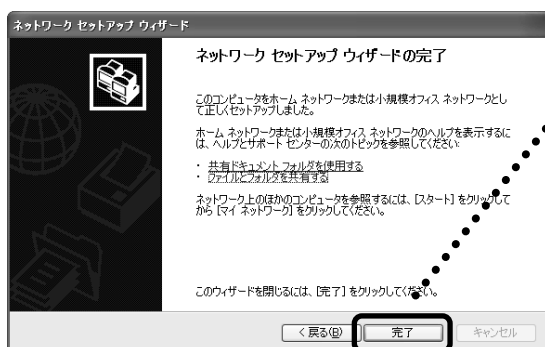
ネットワークの接続設定を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[次へ]ボタンをクリックしたあと、ネットワークの構築が始まります。

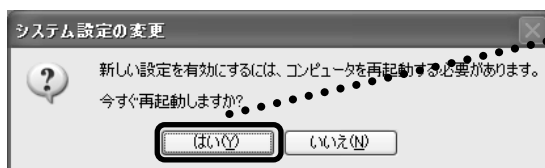
11

任意でオプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

ここでは「ウィザードを完了し、ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要はない」を選択します。

ネットワークを構成する他のパソコンでネットワークのセットアップを行う場合は、「ネットワークセットアップディスクを作成する」を選択してください。

12

[完了]ボタンをクリックします。

再起動を要求するダイアログが表示されます。

13

[はい]ボタンをクリックします。

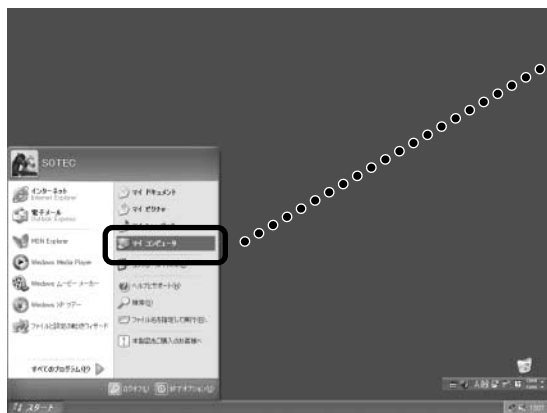
これでネットワークの設定は終了です

STEP4

インターネットとホームネットワーク

ネットワークを確認する

ネットワークが正しく構築されていることを確認しましょう。

1

[スタート]ボタンから[マイコンピュータ]を選択します。

2

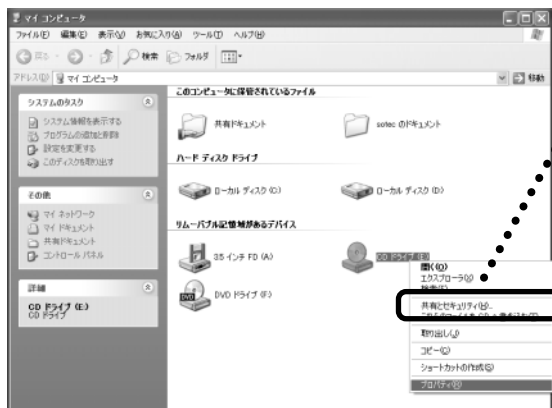
[マイネットワーク]を選択します。

3

マイネットワーク上にネットワーク上に接続されたパソコンのアイコンが表示されていれば、ネットワークの構築は成功です。

ネットワークを共有する

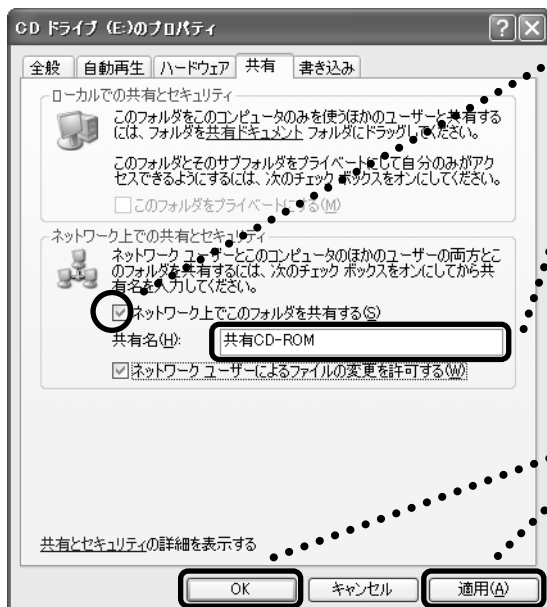
ネットワークで接続されたパソコン同士では、1つのパソコンに接続されているプリンタやCD-ROMドライブを共有できます。ここではCD-ROMドライブを共有させる設定の方法を説明します。

1

マイコンピュータ上にある、CD-ROMドライブのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[共有とセキュリティ]を選択します。

【CDドライブのプロパティ】ダイアログが表示されます。

2

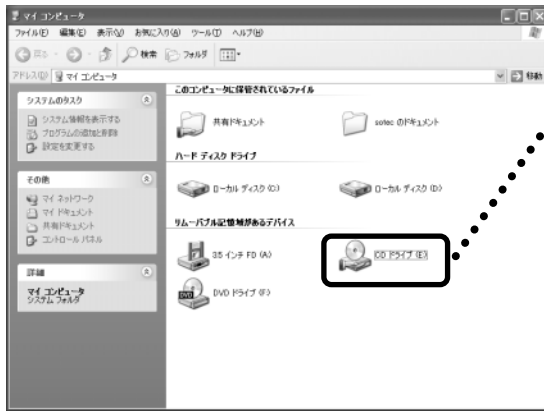
「危険を認識した上でドライブのルートを共有する場合はここをクリックしてください」をクリックします。

3

「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をチェックして、「共有名」に任意の名称を入力します。

ここで入力した共有名が、ネットワーク上で表示されたときのドライブ名になります。

4

[適用]→[OK]の順にボタンをクリックします。

5

CD-ROMドライブのアイコンに手のイラストがついていれば、共有設定は完了です。

STEP4

インターネットとホームネットワーク

STEP5

困ったときには

STEP5では本製品をより快適に使っていただくために、トラブルの解決方法と、トラブルを予防する方法について説明しています。本製品を長くお使いいただくために、ぜひご活用ください。

1 故障かなと思ったら

本機をご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、ここで説明する対処方法に従って処置してください。

参照

ここで説明する対処方法通りにしても解決できないときは「SOTECテクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(☞ SOTECテクニカルサポートサービスのご案内)

パソコンの電源を入れたときに

電源スイッチを入れても動かない

・ACアダプタは正しく接続されていますか？

ACアダプタのプラグが本機と正しく接続されているか、ACアダプタの電源プラグが電源コンセントに正しく接続されているかを確認してください。(☞ 20ページ)

・バッテリは十分に充電されていますか？

ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。(☞ 20ページ)

・ACアダプタが故障していることがあります。

他の電気製品を本機が接続されている電源コンセントに接続して、他の電気製品が動くかどうか確認してください。他の電気製品が正常に動くようであれば、ACアダプタが故障している可能性があります。SOTEC テクニカルサポートセンタへお問い合せください。

・本機が故障していることがあります。

SOTEC テクニカルサポートセンタへお問合せください。

画面に何も表示されない

・本機の電源は入っていますか？

本機の電源LEDが点灯しているか確認し、消えている場合は、本機の電源を入れてください。(☞ 19ページ)

・ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。

・表示モードの設定が外部ディスプレイになっていて、外部ディスプレイの電源がOFFになっていませんか？

本機の電源をONし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。または、Fn＋F7で表示モードを液晶ディスプレイに戻してみてください。

Windows XPが起動しない

・フロッピーディスクがドライブにセットされたままになっていませんか？

フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

周辺機器を取り付けたら Windows XPが起動しない

・周辺機器のデバイスドライバが原因で Windows XPが起動できなくなった可能性があります。

「セーフモード」でWindows XPを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。この方法でWindows XPが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。
[セーフモード]でデバイスを無効にするには、次の操作に従って設定してください。

①本機の電源をONにし、メモリチェックが終了したらF8キーを押し続けます。
②[Windows拡張オプションメニュー]が表示されるので、[セーフモード]をキーボードで選択します。
③[オペレーティングシステムの選択]で[Microsoft Windows XP]を選択します。
④ユーザー名を選択すると、セーフモードでWindows XPが起動します。
⑤【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させ、追加した周辺機器の【プロパティ】ダイアログで[全般]タブをクリックします。
(☞ 104ページ)
⑥[すべてのハードウェアプロファイルを使用する]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。

Windows XPを再起動すると、通常のモードでWindows XPが起動します。

この方法でもWindows XPが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。

パソコンを使っていたら

いきなり画面が消えた

・ACアダプタのプラグが本機から外れていませんか？

ACアダプタのプラグを本機に差し込みなおしてください。(☞ 20ページ)

・スタンバイに入った可能性があります。

本機の電源ボタンを押し、ユーザー名を選択してください。
(☞ 50ページ)

・休止状態になった可能性があります。

電源ボタンを押してください。(☞ 48ページ)

表示される日付や時刻が正しくない

・日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっていませんか？

Windowsのタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。【日付と時刻のプロパティ】ダイアログで正しい日付や時刻を設定してください。

音が出ない

・スピーカの音量が「ミュート」になっていませんか？

ボリュームコントロールで「ミュート」のチェックを外してください。(☞ 43ページ)

・スピーカの音量は小さくなっていませんか？

スピーカの音量を調整してください。
(☞ 43ページ)

フロッピーディスクの内容が読み書きできない

・フロッピーディスクが正しくセットされているか確認してください。

フロッピーディスクを正しくセットして、もう一度やり直してください。(☞ 35ページ)

・フロッピーディスクをフォーマットしていますか？

フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。

・フロッピーディスクの内容が壊れていませんか？

壊れた内容は元に戻りません。バックアップを取ってある場合は、それを使用してください。大切なデータはバックアップを取るように心がけてください。

・フロッピーディスクドライブが故障していませんか？

別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときは、フロッピーディスクドライブが故障しています。SOTECテクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

・フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっていませんか？

ライトプロテクトノッチを書き込み可能な状態にしてください。(☞ 34ページ)

・1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用していませんか？

本機のフロッピーディスクドライブでは1.2MBフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。

・フロッピーディスクの空き容量は十分ですか？

不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

取り付けたマウスが動作しない

・接続ケーブルが外れていませんか？

接続ケーブルを正しく接続してください。それでも動かない場合は、本機を再起動してください。

・本機の電源をONにした後にマウスを接続していませんか？

マウスを接続後、再起動してください。

押したキーと違う文字が表示される

・Caps Lock、ひらがな/カタカナキーなどが間違って押されていませんか？

目的の文字がタイプされるように、Caps Lock、ひらがな/カタカナキーを押してください。(☞ 33ページ)

・キーボードのドライバは適正なものですか？

キーボードのドライバがお使いのキーボードに対応したものではない可能性があります。キーボードのドライバを更新してください。
「ドライバの更新」(☞ 106ページ)

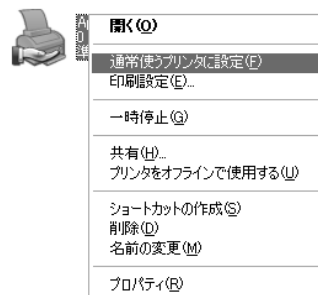
印刷できない
印刷がおかしい

・プリンタの電源は入っていますか？

プリンタの電源を入れてください。

・使用したいプリンタが「通常使うプリンタ」に設定されていますか？

次の手順で設定を変更してください。

①[スタート]ボタンから[プリンタとFAX]を選択します。
②【プリンタとFAX】ウィンドウが開きますので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、「通常使うプリンタに設定」を選択します。

・プリンタケーブルが外れていたり、接触不良を起こしていませんか？

本体とプリンタが、プリンタケーブルで確実に接続されているか、ご確認ください。

・プリンタの用紙・トナー・インクが切れていませんか？

プリンタに付属の取扱説明書に従って、用紙・トナー・インクを補充してください。

・プリンタが印刷可能な状態になっていますか？

プリンタの状態が「印刷可」や「オンライン」の表示をしているかご確認ください。また、プリンタに付属の取扱説明書を参考に設定をご確認ください。

・プリンタのテスト印字はできますか？

プリンタには一般的にテスト印字機能があります。この機能を使ってテスト印字してください。テスト印字についてはプリンタに付属の取扱説明書を参照してください。テスト印字ができないときは、プリンタの故障が考えられます。プリンタの製造元にご相談ください。

・プリンタケーブルの種類は適切ですか？

プリンタによっては、製造元の指定したケーブルを使わないと印刷がうまくいかない場合があります。プリンタに付属の取扱説明書で、使用するケーブルをご確認ください。

・プリンタの設定は正しいですか？

プリンタに付属の取扱説明書を参考に、設定が正しいかご確認ください。

・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？

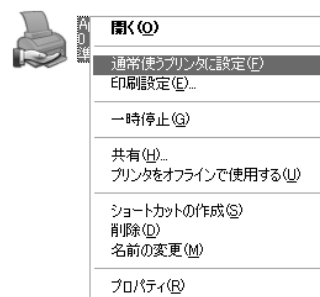
新しくプリンタを接続したときは、プリンタドライバのインストールが必要です。
「ドライバの更新」(☞ 106ページ)などを使い、インストールしてください。なお、なるべく最新のデバイスドライバを使用することをお勧めします。最新のデバイスドライバは周辺機器メーカのホームページから入手できます。

・プリンタドライバの設定を確認してください

プリンタドライバの設定によっては正しく印刷されないことがあります。プリンタの設定に関してはプリンタに付属の取扱説明書を参考にするか、プリンタのメーカにお問い合わせください。

・印刷とは関係のないウィンドウが開く

プリンタが「通常使うプリンタに設定」に設定されているか、次の手順でご確認ください。

①[スタート]ボタンから[プリンタとFAX]を選択します。
②【プリンタとFAX】ウィンドウが開きますので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、[通常使うプリンタに設定]を選択します。

CD-ROMを使っていたら

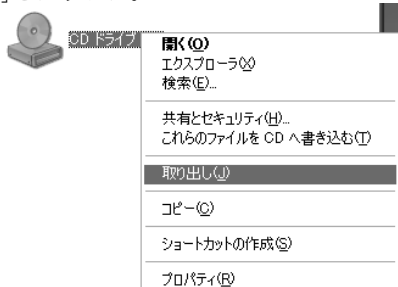
CD-ROMドライブのディスクトレイが出し入れできない

・本機の電源は入っていますか？

本機の電源を入れ、CDイジェクトボタンを押してください。電源が切れている状態では出し入れできません。
電源が入っているのにディスクトレイが出てこない場合は、CD-ROMドライブにある強制排出穴に細いピンを差し込んで、ディスクトレイを強制排出させます。

アドバイス

CD-ROMは次の方法でも取り出せます

[スタート]→[マイコンピュータ]をクリック→CDドライブのアイコンを右クリック→[取り出し]をクリック。

音楽CDが音飛びする CD-ROMディスクのデータを読み出せない

・CD-ROMディスクは正しくセットされていますか？

CD-ROMディスクの表裏を確認して、本機のディスクトレイの中心に正しくセットしてください。CD-ROMディスクは絵やタイトル文字が書かれている面を上にしてセットします。
(☞ 37ページ)

・CD-ROMディスクに汚れや傷はありませんか？

CD-ROMディスクが汚れている場合、乾いた柔らかい布で内側から外側に向かって拭いてください。CD-ROMディスクに傷がある場合、データを正常に読み出せません。

・動作中に何らかの振動を本機に与えませんでしたか？

再生中/読み込み中に振動を与えると、データの読み込みミスが起こります。本機に振動を与えないでください。

再生中の動画がとぎれる 再生がぎこちない

・他のアプリケーションと同時に実行していませんか？

他のアプリケーションを終了させてください。動画データなどの再生には、本機の処理能力が多く必要です。このため、複数のアプリケーションを同時に使用すると、動画データの処理が追いつかなくなり、画像がとぎれたり、動きがぎこちなくなります。

・画面設定は適切ですか？

画面の設定によっては再生に必要な処理能力が多く必要になります。解像度を下げるなどの確認をしてください。(たとえば、32ビットカラーから16ビットカラーへ変更する、再生ウィンドウを小さくする、など)
(☞ 46ページ)

・再生中に、ウィンドウの大きさや位置を変えませんでしたか？

動画を再生中にウィンドウの大きさや位置を変えると、音飛びや画像の乱れの原因になります。ウィンドウの大きさや位置を変えるときは、いったん動画の再生を停止または一時停止にして実行してください。

動画の再生中に画面が消えてしまう

・省電力機能が働いている可能性があります。

動画を再生中、省電力機能が働くと再生画面が消えてしまいます。動画を再生するときは、省電力機能を無効にしておいてください。
(☞ 48ページ)

周辺機器を使おうとしたら

周辺機器を接続しても、自動的に設定が始まらない

・**周辺機器によっては、自動的に設定が始まらないものがあります。**

次の手順で周辺機器を認識さてください。

① [スタート]ボタンから[コントロールパネル]を選択します。
② [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックします。
③ 画面左の[ハードウェアの追加]アイコンをクリックし、新しいハードウェアの追加ウィザードを起動させます。

以降の操作は、画面に表示される指示、および周辺機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

これでも周辺機器を認識しない場合、ケーブルの接続やID番号などの設定を再確認してください。

デバイスドライバをインストールしようとしても、「デバイスドライバが見つかりません」と表示される

・**周辺機器とデバイスドライバが合ってないか、デバイスドライバが壊れています。**

デバイスドライバを更新してください。
「ドライバの更新」(☞ 106ページ)

電源をつけるたびに、同じプリンタドライバをインストールするようメッセージが表示される

・**最初にプリンタドライバをインストールしたとき、正しくインストールされなかった可能性があります。**

一度プリンタドライバを削除し、再インストールしてください。

① [スタート]ボタンから[プリンタとFAX]を選択し、【プリンタとFAX】ウィンドウ内のプリンタのアイコンを全て削除します。
② [プリンタの追加インストール]アイコンをクリックして、再度、プリンタドライバをインストールします。

周辺機器が動かない

・**本機の電源を入れた後に、周辺機器の電源を入れませんでしたか？**

周辺機器の電源を入れた状態で、本機を再起動してください。USB対応機器以外の外付けの周辺機器は、本機よりも先に周辺機器の電源を入れる必要があります。

・**取り付けた周辺機器は、本機に対応しているものですか？**

取り付けた周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器に付属の取扱説明書をよく読むか、周辺機器メーカに問い合わせて確認してください。

・**ケーブルは正しく接続されていますか？**

周辺機器と本機がケーブルで確実に接続されているか、そのケーブルが周辺機器に対応しているか、コネクタの位置は正常かを確認してください。

・**本体内部のケーブル類は確実に接続されていますか？**

内蔵型の周辺機器を取り付ける際、本機内部のケーブルがコネクタから外れている場合があります。本機内部のケーブルに異常がないか確認してください。

・**デバイスドライバは正常に組み込まれましたか？**

周辺機器によっては、周辺機器を取り付けた後、本機にデバイスドライバやソフトウェアを組み込む(インストールする)必要があります。周辺機器に付属の取扱説明書をよくお読みになり、デバイスドライバを組み込んでください。

・周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を1つずつ外して、動作確認をしてください。

・他の機器と競合していませんか？

SCSI機器の場合、他の周辺機器とID番号が重なっていると認識できません。他の周辺機器とID番号が重複していないか確認してください。また、その他にドライブ番号やリソース番号が重複していることも考えられます。ドライブ番号の変更や、リソースの割り付けを見直してください。(☞ 107ページ)

USB機器のコネクタを差し込んだが認識されない

・USBコネクタを一度抜き、すぐに差し込みなおしませんでしたか？

USBコネクタの抜き差しは、3秒以上の間隔をあけてください。USB機器が何も反応しなくなってしまった場合は、Windows XPを再起動させ、再度USB機器を接続してください。
(☞ 70ページ)

SCSI機器がうまく動かない

・ケーブルは各SCSI機器に確実に接続されていますか？

ケーブルが本機(SCSIカード)とSCSI機器に確実に接続されているかご確認ください。

・ケーブルの品質は大丈夫ですか?

ケーブルが断線していないかテスターなどでご確認ください。また、SCSIでは高速データ転送を行うため、ハイインピーダンスケーブルをお勧めします。

・ケーブル長は制限範囲内ですか？

SCSI-2使用時、SCSIケーブルの総延長は3m以内という制限があります。なるべく短いケーブルを使用し、3mを超えない範囲にしてください。

・SCSIケーブルは適切なものですか？

SCSIケーブルは取り付けるSCSI機器のコネクタの形状により、使用するケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認し、対応したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

・終端設定(ターミネータ)は正しいですか？

終端のSCSI機器に、終端設定が行われているかご確認ください。

・SCSIカードは正常に認識されていますか？

SCSIカードが正常に組み込まれていない場合、SCSI周辺機器は認識されません。SCSIカードの確認はデバイスマネージャで確認してください。組み込みが正しくできていない場合、SCSIコントローラの項目に警告が表示されます。

・ID番号の設定は正しくできていますか？

同じID番号を複数の機器で設定していると、各機器を認識できません。各機器のID番号が重複していないかご確認ください。また、ID番号は0～6の範囲で設定してください。

・電源を入れる順番は正しいですか？

起動時、本機より先に外部周辺機器の電源を入れないと、外部機器は認識されません。電源入れる順番を間違えた場合、一度本体の電源を切ってから再起動をしてください。また、デバイスマネージャでSCSIコントローラを選択し、更新を選択すると認識される場合もあります。

アドバイス

使用できるSCSIケーブルについて

使用できるSCSIケーブルについては、各SCSI機器に付属の取扱説明書を参照するか、メーカにお問い合わせください。

2 デバイスマネージャの設定

周辺機器がおかしいときや、手動で周辺機器を設定するときは、デバイスマネージャを使用します。ここではデバイスマネージャの基本的な使い方をはじめとした、周辺機器を取り付けるための予備知識を説明します。

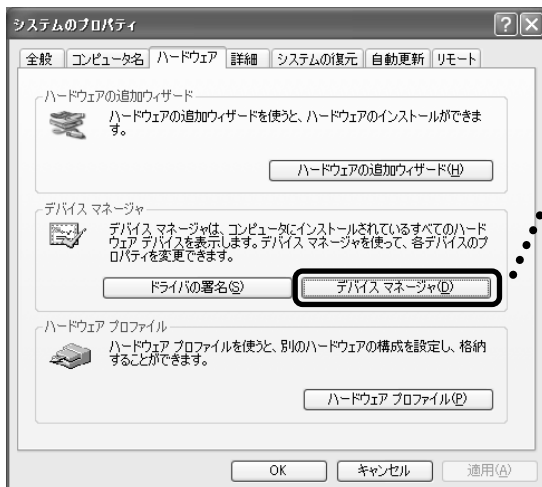
デバイスドライバの表示

ここではUSB機器を例に、周辺機器の状態をデバイスマネージャで確認します。

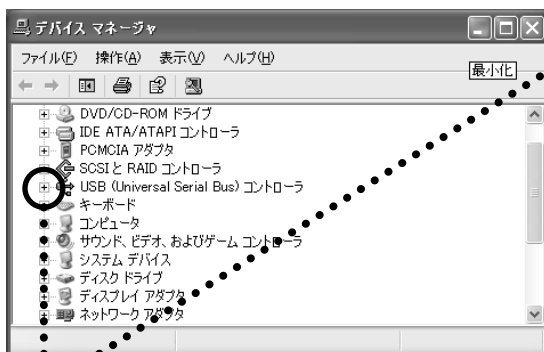
1

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選択します。

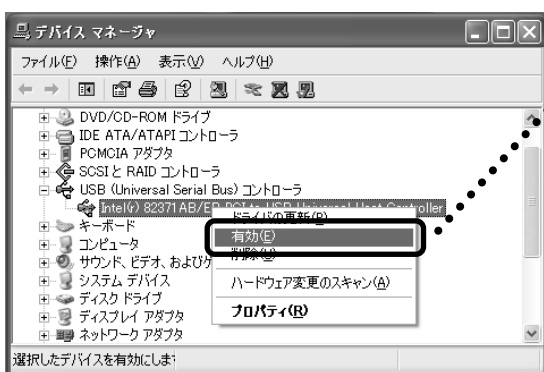
【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。

2

[ハードウェア]タブを選択し、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

【デバイスマネージャ】ダイアログが表示されます。

3

[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の⊞の部分をクリックし、⊟に変更させます。

のマークに×印が入っていないか確認します。×印が入ってなければ有効です。

4

USBに×印が入っているときは、×印がついているUSBポートを右クリックし、表示されるプルダウンメニューから「有効」を選択します。

×印がなくなり、USB機器が使用できるようになります。

手順3で×印が入っていないときは、この手順は必要ありません。

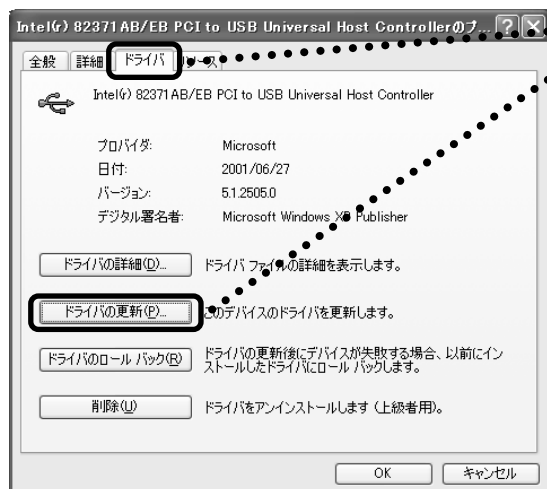
ドライバの更新

周辺機器のドライバが自動的にインストールされないときは、以下の手順でデバイスドライバをインストールしてください。

1 **設定したい周辺機器のデバイスドライバを表示します。**

「デバイスドライバの表示」(☞ 104ページ)

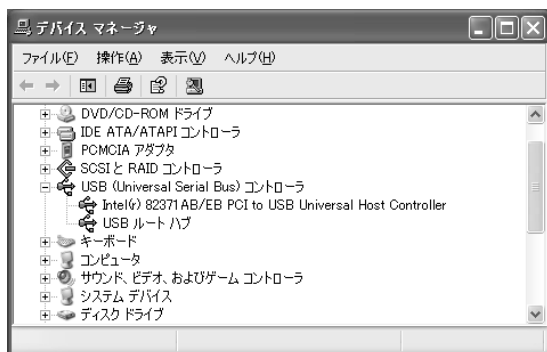
2 **設定したい周辺機器をダブルクリックします。**

設定したい周辺機器のプロパティが表示されます。

3 **[ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]ボタンをクリックします。**

【ハードウェアの更新ウィザード】ダイアログが表示されます。

4 **ウィザードの指示に従い、ドライバをインストールします。**

リソースの競合について

リソースとは、本機と周辺機器が円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。これらリソースの総数は限られており、周辺機器を増設する際には、残りの番号にそれらを割り当てる必要があります。
リソースは通常、Windowsが自動的に管理をするので自分で設定を管理する必要はありませんが、まれに同じリソース番号を複数の周辺機器に割り当ててしまうことがあります。この状態を「リソースの競合」といい、競合した状態では周辺機器は正常に作動しません。

リソースの確認

増設した周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、[デバイスマネージャ]で調べることができます。

デバイスマネージャを表示したときに警告マークが付いていたら、その機器の[プロパティ]を表示させます。[デバイスの状態]欄に「競合」を意味するメッセージが表示されているときは、リソースの競合が発生しています。

リソースの変更

リソースが競合している場合、リソースの割り当ての変更が必要です。

デバイスマネージャでリソース番号の空きを調べ、その番号を割り当てるか、当面使わない機器を一時的に「使用しない」に設定することで、その機器が使用していたリソースを解放し、新たに増設した周辺機器に割り当てることができます。リソースの割り当ての変更や、リソースの解放は、デバイスマネージャで設定します。

リソースについてさらに詳しく知りたい方は、市販のWindows XPの解説本やパソコン専門誌などをご参照ください。

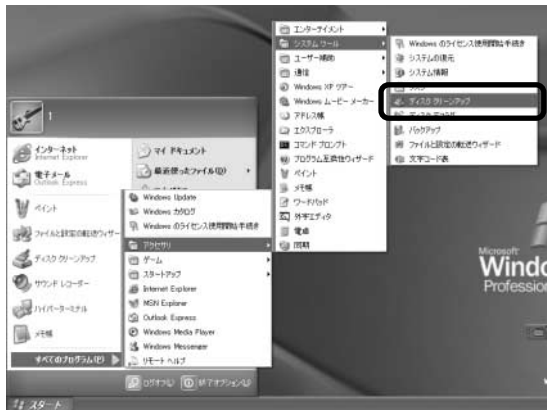
・リソースの競合を避けるために、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使用できなくなります。再びその機器を使用する場合、リソースの再設定が必要です。
・機器によってはリソースの割り当て方に、制限がある場合があります。詳しくは、その機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

3 ハードディスクのトラブル予防

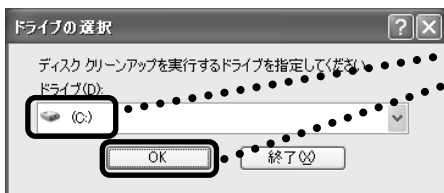
ファイルを保存するハードディスクは、長く使っていると処理速度が遅くなったり、容量が少なくなってきます。ここでは本製品のハードディスクを、より快適に使うための機能を紹介します。

不要なファイルを削除する

Windows XPを使っていると、ソフトウェアで一時的に使用したファイルや、ごみ箱に捨てたファイルなどがたまります。これらは不要なファイルで、多くたまるとハードディスクの容量が少なくなり、ハードディスクの処理速度が遅くなります。不要なファイルは「ディスククリーンアップ」を使って削除できます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスククリーンアップ]の順に選択します。

【ドライブの選択】ダイアログが表示されます。

2

対象となるハードディスクを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

【ディスククリーンアップ】ダイアログが表示されます。

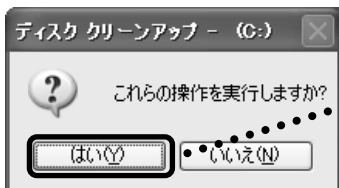
アドバイス　Cドライブ以外にハードディスクがない場合、自動的にCドライブが設定されます。【ドライブの選択】ダイアログは表示されません。

3

ディスク クリーンアップ － (C:)
ディスク クリーンアップ　詳細オプション
ディスク クリーンアップを実行すると (C:) の空き領域が 6,717 KB 増加します。
削除するファイル(F):
ダウンロードされたプログラム ファイル　0 KB
Temporary Internet Files　531 KB
ごみ箱　6,154 KB
一時ファイル　0 KB
WebClient/Publisher の一時ファイル　32 KB
増加するディスク領域の合計:　531 KB
説明
特定のページを表示したときにインターネットから自動的にダウンロードされる、ActiveX コントロールや Java アプレットです。これらは、ハード ディスクの [Downloaded Program Files] フォルダに一時的に保存されます。
ファイルの表示(V)
OK　キャンセル

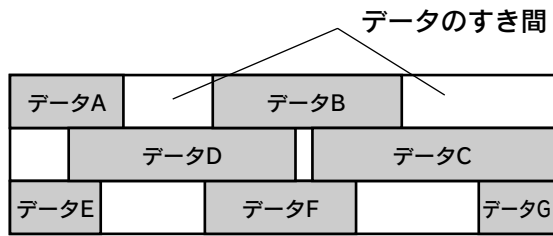
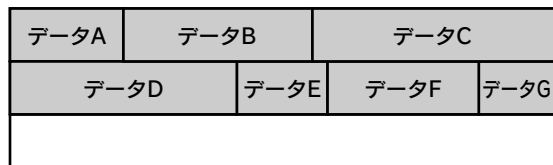
削除するファイルにチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。

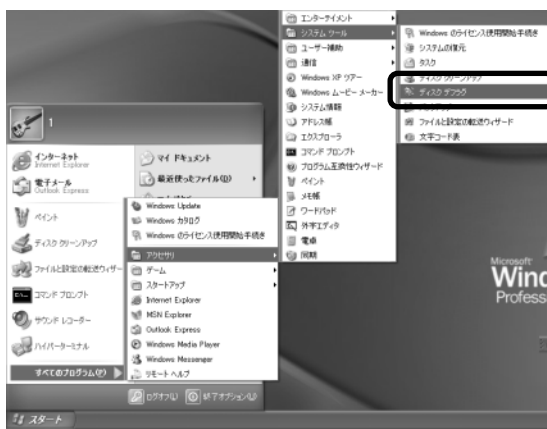
アドバイス　削除するファイル名を選択することにより、ウィンドウ下部の「説明」欄にそれぞれのファイルについて説明文が表示されます。

4

ファイル削除を確認するダイアログが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。

選択したファイルが削除され、自動的に【ディスククリーンアップ】ダイアログが閉じます。

処理速度を速くする

データA データB データC
データD データE データF データG

ファイルの保存と削除を繰り返していると、左の図のようにハードディスクのデータにすき間ができます。
「ディスクデフラグ」を使ってデータのすき間を詰めることにより、ハードディスクの処理速度は速くなります。この操作のことを、最適化(デフラグ)といいます。

1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスクデフラグ]の順に選択します。

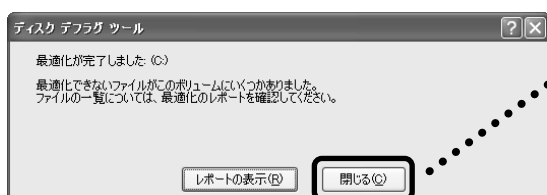
【ディスクデフラグツール】ダイアログが表示されます。

2

対象となるハードディスクを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

ハードディスクの最適化がはじまります。

最適化中はなるべくWindowsを使用しないでください。アプリケーションを起動したり操作すると、その都度最適化が中断されるので、最適化の終了が遅くなります。

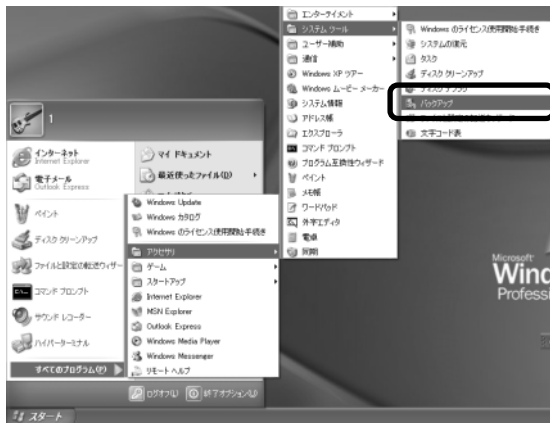
3

最適化の終了を知らせるダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。

自動的に【ディスクデフラグツール】ダイアログが閉じます。

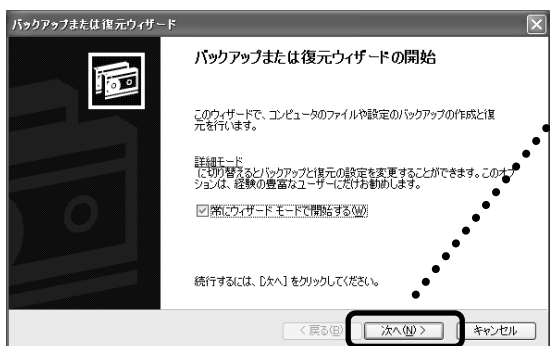
バックアップをとる

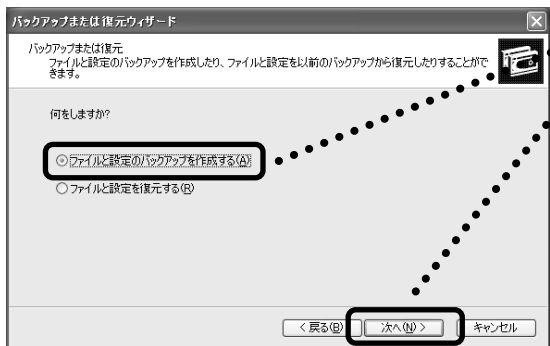
※Windows XP Professionalのみの機能です。

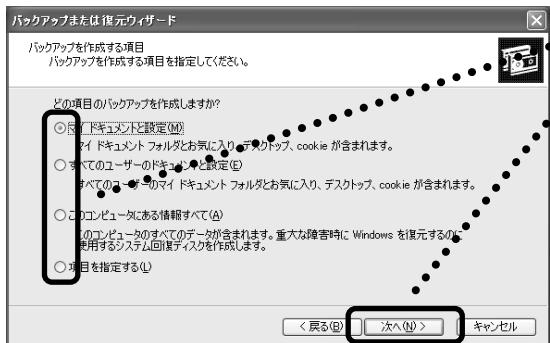
誤って大切なファイルを削除した場合、一度消えたファイルは元に戻りません。万が一に備え、ハードディスクの内容を別のディスクにコピーしておきましょう。この操作のことを、バックアップといいます。

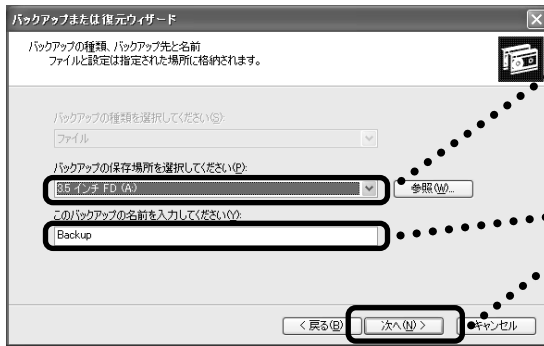
1

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップ]の順に選択します。

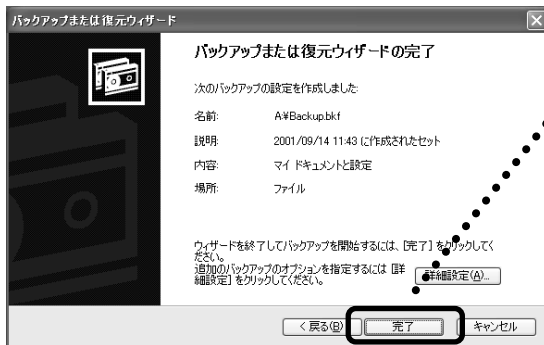
【バックアップまたは復元ウィザード】ダイアログが表示されます。

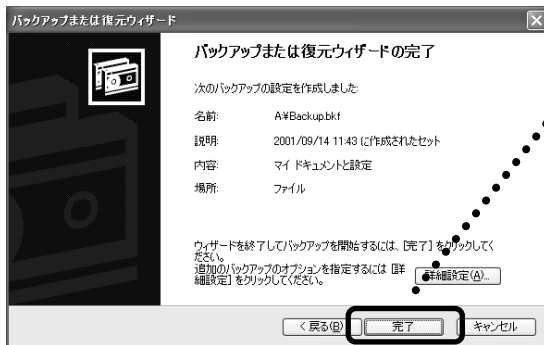
2

[次へ]ボタンをクリックします。

3

「ファイルと設定のバックアップを作成する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

4

バックアップを作成する項目を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

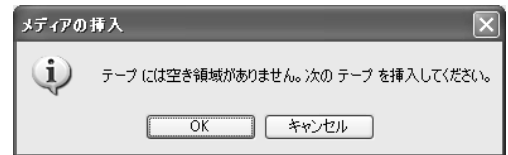
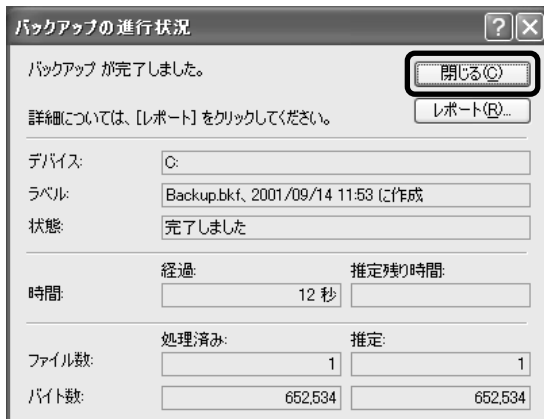
5

バックアップするファイルの保存場所を選択します。

6

バックアップの名前を入力して[次へ]ボタンをクリックします。

7

手順5で選択したバックアップの保存場所にディスクが準備できているか確認し、[完了]ボタンをクリックします。

バックアップが始まります。

次の画面が表示されたときは

バックアップファイルの大きさが、保存するディスクの空き領域を超えると、ディスクの交換を知らせるメッセージが表示されます。新しいディスクを入れ、[OK]ボタンをクリックしてください。

8

バックアップの完了を知らせるダイアログが表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックします。

バックアップを使ってファイルを復元するには

バックアップを取っていれば、誤って削除してしまったファイルを復元することができます。「バックアップをとる」の手順3(☞ 110ページ)で「ファイルと設定を復元する」を選択し、表示されるウィザードの指示に従って操作してください。

ハードディスクのエラーをチェックする

ハードディスクは、使っているうちに外部からの磁気や衝撃を受けることにより、ディスクそのものが壊れることがあります。ディスクが壊れると、Windowsを使用中に動かなくなったり、保存していファイルが使えなくなります。「エラーチェック」を使い、定期的にハードディスクのエラーをチェックしましょう。

1

[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]を選択します。

【マイコンピュータ】ウィンドウが表示されます。

2

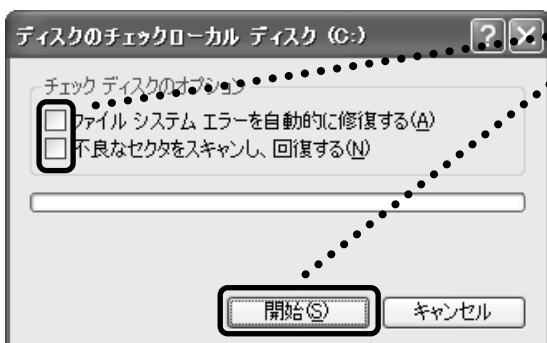
[ローカルディスク]アイコンの上で右クリックし、表示されるプルダウンメニューから「プロパティ」を選択します。

【ローカルディスク(C:)のプロパティ】ダイアログが表示されます。

3

「ツール」タブを選択し、「エラーチェック」欄の[チェックする]をクリックします。

【ディスクのチェックローカルディスク】ダイアログが表示されます。

4

必要に応じて「チェックディスクのオプション」をチェックし、[開始]ボタンをクリックします。

エラーチェックが始まります。

アドバイス

「チェックディスクのオプション」を選ばずに実行すると、ハードディスクのエラーが検出されるだけで、エラーは修復されません。

5

エラーチェックの終了を知らせるダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

4 システムの復元

ソフトウェアのインストールやシステムの設定変更などが原因で、Windows XPが正常に動かなくなることがあります。「システムの復元」を使うと、Windows XPを正常だったときの状態に戻せます。

1 **[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[システムの復元]をクリックします。**

【システムの復元】ウィザードが表示されます。

2 **「コンピュータを以前の状態に復元する」が選択されているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。**

3 **復元ポイントのある日付を選択します。**

4 **復元ポイントを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。**

復元ポイントとは、パソコンを復元するときに必要なデータのことです。復元ポイントは、パソコンが起動している10時間ごと、もしくはパソコンの電源を24時間以上切った状態で次に電源を入れたときに、自動的に作成されます。また、手動で作成することもできます。手順2で「復元ポイントの作成」を選択し、ウィザードの指示に従い操作してください。

5

[次へ]ボタンをクリックします。

復元がはじまり、Windowsが再起動します。

6

[OK]ボタンをクリックします。

アドバイス

システムを復元したことにより、大事なファイルを失ってしまったときは、システムの復元作業を取り消すことができます。前のページの手順2で、「以前の復元を取り消す」を選択し、ウィザードの指示に従い操作してください。

付　録

1 BIOSを設定する

ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、具体的にパソコンを動作させるためのプログラムです。
このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。
本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をすると本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。
誤った設定により本機が正しく動作しなくなった場合には、BIOSが起動している状態で F9 キーを押します。BIOSの設定を初期設定に戻すかどうかのメッセージが表示されるので[YES]を選択してください。BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動されます。

BIOSセットアッププログラムの起動方法

1 本機の電源がOFFであることを確認します。

2 本機の電源ボタンを押して、電源をONにします。

3 "SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、F2 キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

付録

項目の選択・設定の方法

BIOSセットアップブログラムは、次のキーを使って操作します。

- ・メインメニューの項目を左右に移動するには　→←キー
- ・項目を上下に移動するには　↓↑キー
- ・サブメニューへ移動するには　↵キー
- ・ヘルプを見るには　F1キー
- ・変更した設定を保存するには　F10キー
- ・サブメニュー・メニューを終了するには　Escキー
- ・設定値を変更するには　－＋キー

参照

BIOSの詳しい操作方法についてはWindowsのデスクトップ画面から[スタート]→[本製品をご購入のお客様へ]→[BIOSマニュアル]を、ご参照ください。

BIOSセットアッププログラムの終了

設定した内容を保存して終了する

① F10キーを押します。

② メッセージが表示されるので、[Yes]にカーソルをあわせて↵キーを押します。

設定した内容を保存せずに終了する

① [EXIT]→[Exit Discarding Changes]の順にカーソルをあわせて↵キーを押します。

② メッセージが表示されるので、[Yes]にカーソルをあわせて↵キーを押します。

付録

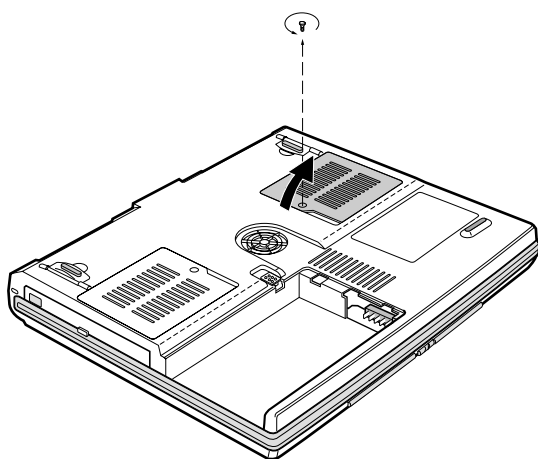
BIOSセットアッププログラムのメニュー構成

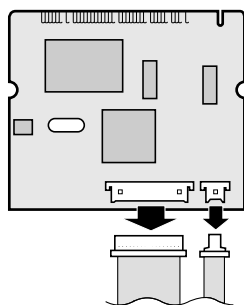
BIOSセットアッププログラムは6つのメニューから構成され、それぞれのメニューで設定できる内容は次のようになっています。

メニュー	内　容
Main	内部のシステムクロック(時分秒)やカレンダー(年月日)の設定、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク、CD-ROMドライブといったドライブの設定、キャッシュメモリの設定をします。
Advanced	本機のシリアルポートやパラレルポート、外部接続マウスなどの設定をします。
Security	BIOSやWindows XPを起動するときに、パスワード入力を必要にさせる設定をします。
Power	省電力で本機を動作させるなど、電源管理の設定をします。Windows　XPの省電力機能(☞ 48ページ)でも、設定できます。
Boot	本機を起動する際に、どのドライブから起動させるかを設定します。 本機の電源をONにすると、BIOSで設定した順番にドライブを検索して、一番最初に見つけたシステムファイルからWindows XPを起動します。
Exit	設定した内容を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選択します。また、BIOSの設定を初期設定の状態に戻したいときも、この[Exit]メニューから選択します。

2 miniPCIカードの取り外し

本機のminiPCIカードの取り外しかたを説明します。

・特に理由がない限り、miniPCIカードは取り外さないでください。本機が正常に動作しなくなる恐れがあります。
・装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにして、内蔵バッテリを外してください。

1 **本機の電源がOFFになっていることを確認します。**

2 **ネジを外して、miniPCIカードカバーを外します。**

3 **miniPCIカードを取り付けているフックを外に開くきます。**

4 **miniPCIカードを上に持ち上がりますので、ゆっくり引き抜きます。**

5 **miniPCIカードに取り付けられているケーブルを引き抜きます。**

6 **miniPCIカードカバーを元通りに取り付けます。**

3 用語集

本機に関連する用語を説明しています。

bit

「ビット」と読む。データの大きさの単位のこと。
8bit=1Byte
と換算できる。
→Byte

bps

「bit per second」の略で「ビーピーエス」と読む。通信速度の単位のこと。インターネットなどでよく使われる。
8Mbpsで1秒間に8Mbit(1MByte フロッピーディスク1枚弱くらい)の情報量が通信されるということになる。
→bit、Byte、通信速度

Byte

「バイト」と読む。データの大きさの単位のこと。
1KB=1024Byte
1MB=1024KB
1GB=1024MB
と換算できる。
1Byteは半角文字1文字分のデータ量に相当する。
→GB、KB、MB

CPU

「Central Processing Unit」の略で「シーピーユー」と読む。人間の体で例えるならば大脳にあたる。コンピュータの中心となる部分で、いろいろな演算や制御を行う。

dpi

「Dots Per Inch」の略で「ディーピーアイ」と読む。プリンタやスキャナなどでの印字の精密さを表す単位のこと。一般的にこのdpiの数値が高ければ高いほど、精密な印刷などができ、高性能の製品ということになる。
→スキャナ

GB

「Giga Byte」の略で「ギガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1GB=1024MBである。
→Byte、MB

Hz

「Helz」の略で「ヘルツ」と読む。周波数・振動数の単位で、コンピュータのCPUのクロック周波数を表すのによく使われる。一般的にCPUのHzの数値が高ければ高いほど、そのCPUは高性能である。
→CPU、クロック周波数

JPEG

「Joint Photographic Expert Group」の略で「ジェイペグ」と読む。カラー静止画像の圧縮・伸長方式のこと。現在では国際標準の規格となっていて、コンピュータの機種に関係なくファイルの交換できるメリットがあることなどから、インターネットなどでよく使われている。

KB

「Kilo Byte」の略で「キロバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1KB=1024Byteである。
→Byte

MB

「Mega Byte」の略で「メガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1MB=1024KBである。
→Byte、KB

MO

「Magnet Optical」の略で「エムオー」と読む。光磁気ディスクとも呼ばれていて、レーザー光を磁場を利用して高密度でデータを記憶できる円盤型の記憶媒体である。記憶容量は128MB～1.3GBまでのものがある。(2001年10月現在)
→GB、MB

MPEG

「Motion Picture Expert Group」の略で「エムペグ」と読む。カラー動画像の圧縮方式のこと。カラーの動画像データを再生するためには膨大な処理能力を必要とするので、そのための動画像を圧縮処理をする標準化したものを指す。
また、MPEGは音声圧縮も扱っており、mp3(MPEG Audio Layer-3)などが有名である。

OS
→オペレーティングシステム

RAM
英語のランダムアクセスメモリ(Random Access Memory)の略で「ラム」と読む。自由に読み書きができるメモリのこと。プログラムのほとんどが、RAMに読み込まれてから動作するようになっている。また、データもRAMに読み込んでから処理される。
→メモリ

ROM
英語のリードオンリーメモリ(Read Only Memory)の略で「ロム」と読む。読み込むことしかできないメモリのこと。システムソフトウェアはROMに書き込まれていることが多い。
→ソフトウェア、メモリ

RS-232C
米電子工業会(EIA)によって規定されたコンピュータと周辺装置とのインターフェースの規格のこと。外付けのモデムに接続する場合、このインターフェースを利用するのが一般的である。
→インターフェース、モデム

TCP/IP
「Transmission Control Protocol/Internet Protocol」の略で、「ティーシーピーアイピー」と読む。ネットワーク(インターネットを含む)で通信する際に使用される最も基本的なプロトコルの集まり。
→プロトコル

VRAM
「Video RAM」の略で「ブイラム」と読む。ディスプレイに文字や画像を表示するためのデータを書き込む、画像表示専用メモリのこと。文字を表示するテキスト用VRAMと、画像を表示するグラフィック用VRAMに分けられる。
→メモリ

Windows
「ウィンドウズ」と読む。「見ただけでわかる、誰でも簡単に操作できるOSを」という趣旨で、マイクロソフト社が開発したOSのこと。操作する内容は、ひと目でわかるさまざまな色のグラフィック(絵や図形)で画面に表示され、基本的なほとんどの操作は、マウスで行える。
→オペレーティングシステム(OS)

アイコン
マウスを使用するソフトウェアで、命令や処理を表現するために使用する絵文字のこと。
→ソフトウェア

アプリケーションソフトウェア
文書作成、データ管理、表計算などといった作業を実行するために開発されたソフトウェアのこと。
→ソフトウェア

アンインストール
ハードディスクなどに組み込まれたソフトウェアをそのハードウェアから削除すること。
→ソフトウェア、ハードウェア

インストール
ソフトウェアをハードディスクに組み込んで使用できる状態にすること。
→ソフトウェア

インターフェース
装置と装置の接続仕様のこと。通常、パソコン本体と周辺機器とをつなぐコネクタなどを指すことが多い。
→コネクタ、周辺機器

オペレーティングシステム(OS)
ハードウェアとアプリケーションソフトウェアの間で、プログラムの制御や管理、入出力の制御などを行うためのソフトウェア全般のこと。Windowsもこれにあたる。
→Windows、アプリケーションソフトウェア、
ハードウェア

カーソル
ディスプレイ上に文字や図形を入力、表示する位置を示すマークのこと。四角が画面上に点滅するもの、下線が点滅するものなどがある。

解像度
ディスプレイ上で表示するとき、どれだけ精密に表示できるかを示す基準のこと。ディスプレイの画面は、ドット(点)で表示されていて、このドット数が多ければ多いほど、ディスプレイの表示範囲が広くなる。

クロック周波数

パソコン本体に内蔵されているCPUの動作周波数のこと。同じCPUであれば、この数値が大きいほど、パソコンの処理速度は速くなる。
→CPU、Hz

コネクタ

パソコン本体と周辺機器をつなぐ接続部分のこと。
→周辺機器

コンピュータウイルス

電子世界でのウイルスはプログラムのことである。コンピューターウイルスに感染したコンピュータはデータが破損されるなどの症状を引き起こす。
→ワクチン

システムソフトウェア

オペレーティングシステムなど、コンピュータを動かすための基本的なソフトウェアのこと。
→オペレーティングシステム(OS)、ソフトウェア

周辺機器

プリンタ、ディスプレイ、モデムなど、コンピュータ本体に接続して使用する本体以外の機器全般のこと。
→モデム

初期化

周辺機器や記憶媒体を使用できる状態にすること。記憶媒体の場合、どこをどういう情報に書き込むか、どの情報を読むかなどコンピュータにわかるように、いわば区画整理をして、あるソフトウェアのもとで使用できる状態にすることをいう。
→周辺機器、ソフトウェア

シリアルポート

主としてモデムを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。一度に1bitずつしかデータを送れないため、転送速度はあまり速くない。
→bit、周辺

スキャナ

絵や写真などを画像データとしてコンピュータに取り込む周辺機器のこと。
→周辺機器

スクロール

画面に表示する範囲を、上下左右に移動させること。

ソフトウェア

アプリケーションソフトウェア、システムソフトウェアなどプログラム全般のこと。コンピュータ本体、周辺機器などのハードウェアに対して、このように呼ばれる。
→アプリケーションソフトウェア、システムソフトウェア、周辺機器

ダウンロード

一般的に、インターネット上にあるファイルを自分のコンピュータに転送すること。

通信速度

単位時間あたりのデータの伝送速度のこと。よく使われる単位として、bps(bit per second)がある。
→bps

デジタルカメラ

撮った画像をネガではなくデジタルデータとして保存するカメラのこと。撮った画像をコンピュータに転送したり、編集することが容易である。

デバイス

コンピュータに接続される周辺機器のこと。
→周辺機器

デバイスドライバ

周辺機器をコンピュータと接続させて動かすときに、コンピュータが周辺機器を制御するために必要となるソフト。
→周辺機器

ドライブ

一般的にフロッピーディスク、CD-ROM、ハードディスクなどを動かす装置のことを指す。また、ハードディスク内などで論理的に分けられた場合などにもそれぞれを1つのドライブとよぶ。

ネットワーク

複数のコンピュータを電話回線などの通信網でつないで、データのやりとりをする形態のこと。インターネットやLANもネットワークの一種である。

バージョン

ソフトウェアやハードウェアなどの開発された順序を示す表現。書籍などの第X版にあたる。通常は数値などで表現される。
→ソフトウェア、ハードウェア

ハードウェア

コンピュータ本体や周辺機器などの機械類を総称して、ハードウェアという。これに対して、ハードウェアを動かすプログラムのことをソフトウェアという。
→周辺機器、ソフトウェア

パラレルポート

主としてプリンタを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。一度に複数個のデータを送れるため、シリアルポートより高速なデータ転送ができる。
→コネクタ、周辺機器、シリアルポート

フォーマット

ディスク(記憶媒体)を、OSで使用できるように設定すること。
→オペレーティングシステム(OS)

プラグイン

アプリケーションソフトウェアに追加機能を設定するためのプログラムのこと。
→アプリケーションソフトウェア

プロトコル

コンピュータがお互い接続でき、極力エラーを起こさずに情報をやり取りできるようにと設計された、一組の規則や規約のこと。インターネットで通信を行う場合のプロトコルは、TCP/IPである。
→TCP/IP

ブロードバンド

ADSL・ISDN・CATV・光ファイバーなどの、「高速通信」、「常時接続」、「定額料金」の特徴をもつインターネット接続サービスのこと。通信速度が速いので、インターネットライブやビデオメールなど大量のデータをストレスなく送受信できる。また、一定の料金で24時間いつでも使えるため、時間を気にせず経済的にインターネットが使える。

ポインティングデバイス

特定の指示した位置に入力をする装置の総称。マウスもポインティングデバイスの1つ。

補助記憶装置

メモリの容量不足を補うための記憶装置のこと。フロッピーディスクやハードディスクなどがそれにあたる。
→メモリ

マルチメディア

グラフィックス、サウンド、動画などを表現するメディアのこと。パソコン上ではこれらのメディアを、デジタル処理によって組み合わせて表現することもできる。

メモリ

CPUがデータを処理する際に、そのデータを一時的に保管する場所をいう。一般的にメモリにはRAMが使われる。
→CPU、RAM

モデム

「MODEM:MOdulator=変調器、DEModulator=復調器」という変復調器の英語からの造語されたもので、データ(情報)通信に用いられる機器のこと。電話回線の音声信号(アナログ信号)をコンピュータが処理できるデジタル信号に変調したり、あるいは、この逆の処理(復調)を行う。

ワクチン

コンピュータウイルスを発見・修正するためのプログラムのこと。
→コンピュータウイルス

4 索　引

S

T

U

V

W

数字

WinBook WS シリーズ
ユーザーズガイド

2001年10月　初版
株式会社ソーテック